

FDK

CSR Report **2018**

FDKグループ CSRレポート



スマートエナジーマネージャー

FDKグループは強みを有する電池技術、回路技術および
 パワーエレクトロニクス技術を結集させ、
 “電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献する
 「スマートエナジーマネージャー」として、
 お客様に“One FDK”でサービス・価値を提供してまいります。

■ 会社概要

会社名	FDK株式会社 (FDK CORPORATION)
創立	1950年
本社	〒108-8212 東京都港区港南一丁目6番41号 品川クリスタルスクエア8階
資本金	28,583百万円 (2018年8月31日現在)
売上高	2017年度 (2017年4月1日～2018年3月31日) 連結: 73,129百万円
従業員数	連結: 3,971名 (2018年3月31日現在)
事業内容	各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびに エレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用 製品・応用装置の製造および販売
主要製品	アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、 マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、 電池製造設備、スイッチング電源、コイルデバイス、 DC-DCパワーモジュール、積層パワーインダクタ、 セラミックス部品、トナー、液晶ディスプレイ用信号 処理モジュール

■ 「FDKグループCSRレポート2018」について

編集方針

FDKは、FDKグループのCSR基本方針にもとづく様々な活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、「FDKグループCSRレポート2018」でお伝えしています。
 「FDKグループCSRレポート2018」では、FDKグループが定めたCSR活動の「7つの重点課題」に沿ってご報告します。

対象期間

2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日)の活動を中心に報告しています。(一部それ以外の期間の内容も含まれます。)

対象範囲

FDKおよびFDKグループを対象としています。一部の報告は、FDK単体のものがあります。

参考にしたガイドライン

「FDKグループCSRレポート2018」は、ISO26000社会的責任に関する手引きや環境報告ガイドライン2012年版を参考に作成しています。

ISO26000(中核主題)のアイコン



お問い合わせ先

CSR・コンプライアンス統括部
 TEL:03-5715-7402
 FAX:03-5715-7401
 E-Mail:csr@fdk.co.jp

Contents

トップメッセージ	3
身近な暮らしの中のFDK	5
事業を通じたCSRによる価値提供	7
FDKのCSR	
CSRマネジメント	9
7つの重点課題	11
マネジメント体制	
コーポレート・ガバナンス	13
内部統制	14
法の遵守	14
お客様・お取引先様とともに	
様々な形で社会に貢献する電池、電子製品を供給	17
社会とともに	
ステークホルダーとの対話と協力	21
従業員とともに	
多様性の受容、地球と社会に貢献する人材の育成	23
環境保全活動	
地球環境保全への対応	27
概要、グループ会社	31

スマートエナジーマネージャーとして、 FDKグループミッションを実現し、社会に貢献する

社会とともに歩むFDKグループ

FDKグループは、お客様にご満足いただける電池、電子製品の開発・供給により、様々な形で社会に貢献できる「エネルギーマネジメントメーカー」として、その時代ごとに求められる新しい価値を追求しながら、社会とともに発展してきました。

近年、気候変動、気象災害の激甚化などの環境問題や、都市化・高齢化あるいは人権・人口動態などの社会課題が顕在化するなか、国連での「持続可能な開発目標(SDGs)」採択や投資市場におけるESG(環境・社会・ガバナンス)投資への関心の高まりなど、企業のサステナビリティに対する取り組みへの期待が急速に高まっています。また、AI、ロボティクス、IoTなどのデジタル技術の急速な進化によって、かつてないほどの急激な社会変革が起きており、そのなかでいかに豊かな市民生活を実現していくかが企業の取り組むべき大きな課題となっていると考えています。

このように複雑かつ急激な変革のなか、社会的課題を解決するイノベーションを求める動きが活発化しています。FDKは2017年、従来の製品供給にサービスを加えた「スマートエナジーマネージャー」という新たな目指す姿を掲げました。これまで培ってきた電池技術と回路技術およびパワーエレクトロニクス技術を結集させ、電気エネルギーを効率的に利用する技術でお客様の課題を解決するビジネスを推進してまいります。

現代社会において、電気エネルギーは家庭から産業に至るまで、なくてはならないインフラです。加えて、近年の情報産業において、IoT、モビリティといったモノと情報が一体化した情報インフラの進化に対しても適切な電気エネルギーの供給は欠かせません。すでに顕在化している課題はもちろんのこと、今後の技術進展に伴う課題を先取りしてお客様に提起・解決支援に関わることで、その先にある豊かな社会の発展に貢献していくことができるものと考えています。

「One FDK」での技術力を基盤とした CSR推進で社会に貢献する

FDKグループにおけるCSRの推進は、企業市民として果たすべき責任を確実に実行するだけでなく、より積極的に社会の課題解決に携わり、貢献していくことを目指しています。「電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献する」というグループの創業以来のミッショ

ンの実現に向けて「One FDKで価値を提供する」ことを繰り返し社内で確認し、全員参加での取り組みに努めています。そして新たに注力するテクノロジー領域としてIoT、モビリティ、5G・再生可能エネルギー蓄電といった社会インフラの3領域に着目し、電池・電子の技術力を「One FDK」で結集し、経済・環境・社会の各側面を網羅したCSR活動を推進し、それぞれの課題解決に貢献してまいります。

CSR推進に向けた一人ひとりの意識醸成

昨年の社長就任以来、私自身が多くのお客様や株主様、グループ各拠点の従業員と対話を重ねてきたなかで、FDKに対して大きな期待を持たれていること、またFDKはその期待に応えるだけの力を十分蓄えていることを実感しています。

一方、事業の推進にあたって、一人ひとりの従業員の意識変革も重要であることを感じました。「One FDKで価値を提供する」とは、製品・技術面にとどまらず、従業員全員が問題意識をしっかりと共有し、それぞれの力をいかに発揮して、お客様に価値を提供できる体制を構えるという基本姿勢も表しています。多様性を育み、結果と過程を適切に評価し、ネガティブなことも含めて議論しあえるよりオープンな企業風土を構築してまいります。

7つの重点課題を着実に進展

CSRの具体的な推進にあたっては、PDCAサイクルを回して着実に目標を達成していくことが欠かせません。「ステークホルダーとの対話と協力」「法の遵守」「コーポレート・ガバナンスの強化」については、遅滞なく対応を図っていくことが重要となります。2017年度においても、この3点について堅実に取り組み、十分な成果を上げることができました。

「地球環境保全への対応」「多様性の受容」「地球と社会に貢献する人材の育成」の3点については、社会情勢の変化もあり、常に中身を検証・改善を図っていくことも必要です。当初計画の達成に満足することなく、社会からの要請に対して、より高みを目指した取り組みを進めてまいります。また、「様々な形で社会に貢献する電池、電子製品の供給」を継続的に実現することにより、ステークホルダーの皆様のご期待に応え、企業価値をより高めてまいります。

グローバルな社会課題への対応

グローバルに社会と経済が連動している今日、FDKグループ内の課題に対しても、内向きの視点だけで解決を図ることは現実的ではありません。FDKグループの取り組みは、「電気エネルギー」という世界共通の社会基盤に関わるものであることから、世界の電気エネルギー関連技術の開発および利用の動向に注視し、さらには先取りするといった取り組みが重要です。またFDKグループのビジネス、事業拠点、従業員は欧米・アジアを中心に広く海外に展開しており、各国・地域への、そしてそれをつないだグローバルな社会課題の解決への貢献や要請への対応に取り組めます。国連が世界のあらゆる人々や社会が発展し、地球環境が持続可能であるために達成すべき目標として提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」への貢献も、そのグローバルな活動の一つとらえ社内での啓発を進めるとともに、FDKグループの活動の影響について重点課題の結びつきを含めて検証し、SDGsの17の目標のうち、7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに、9:産業と技術革新の基盤をつくろう、12:つくる責任つかう責任、13:気候変動に具体的な対策を、の4つをFDKグループが注力する目標として定めました。

ステークホルダーの皆様へお願い

CSRについては、近年様々な観点から研究も進み、社会からの要請も多様なものが求められるようになってきました。FDKグループは、富士通グループの一員として、一人ひとりの従業員の意識から社会への影響まで、広い視点を持ち、「電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献する“スマートエナジーマネージャー”を目指す」というミッションのもと、今後もCSR活動を積極的に進めていく所存です。

本レポートで、CSR活動に関するFDKグループの取り組みについてご理解を賜われればと存じますが、今後のFDKグループの取り組みのため、ステークホルダーの皆様からの忌憚ない、ご評価、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

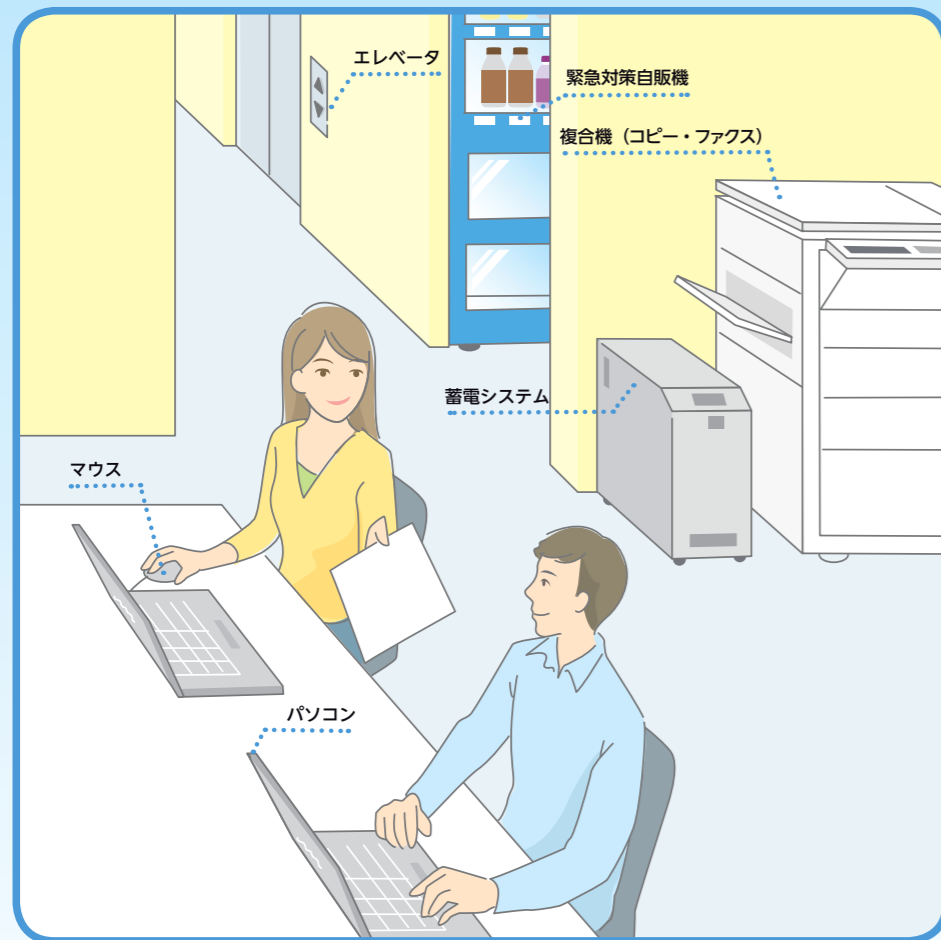
2018年9月

代表取締役社長
大橋 洋一



身近な暮らしの中のFDK

FDKグループの製品は、家庭や職場など人々の身近な暮らしに密着した色々な機器に使われています。社会インフラを支える機器や車、また医療・福祉の現場で活躍する様々な機器にも使われていて、人々の安全・安心な暮らしに貢献しています。また、省エネルギーや環境負荷低減に貢献する環境配慮型製品も数多く提供し、スマートエナジーマネージャーとして持続可能な社会の発展に寄与しています。



社会インフラ・ビジネスで!

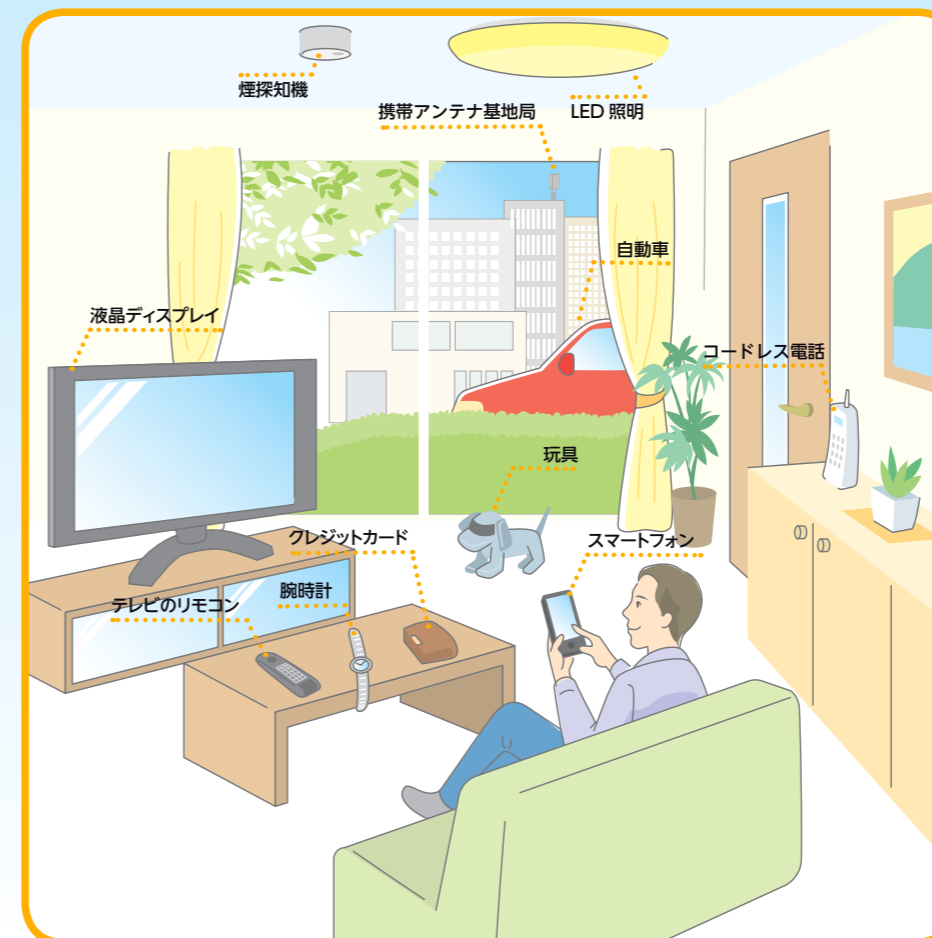
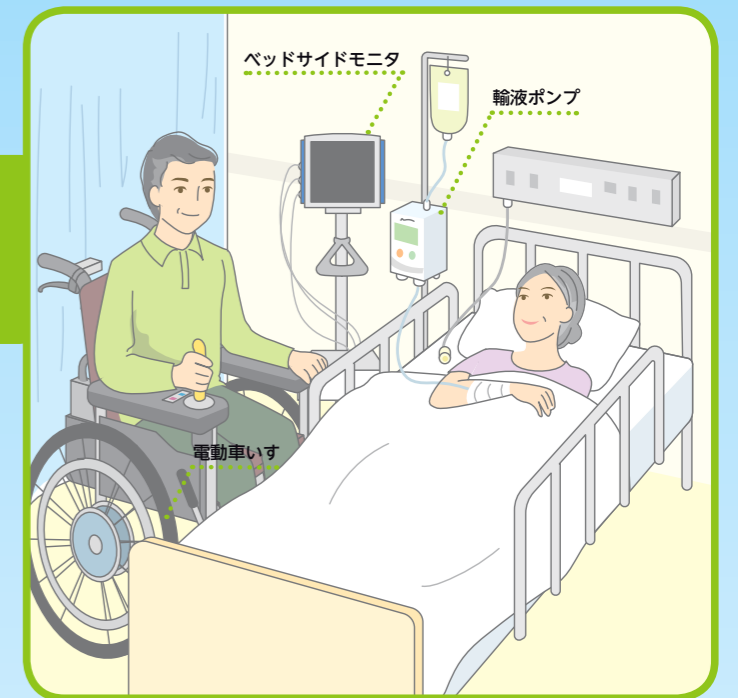
- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 蓄電システム
- 超薄型センサービーコン
- DC-DC パワーモジュール
- EMI 対策部品
- トナー

など

医療・福祉の現場で!

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池

など



ご家庭で!

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 積層パワーインダクタ
- 液晶ディスプレイ用信号処理モジュール

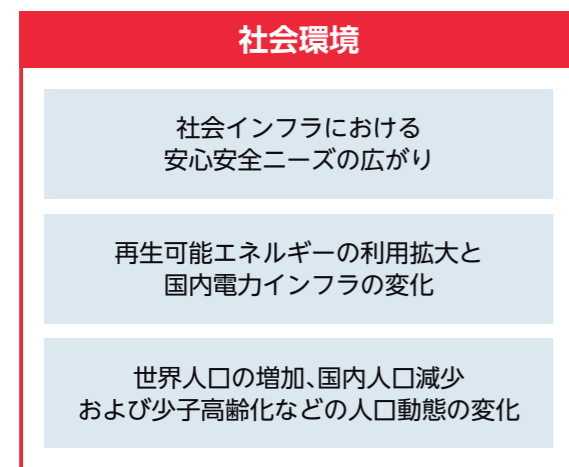
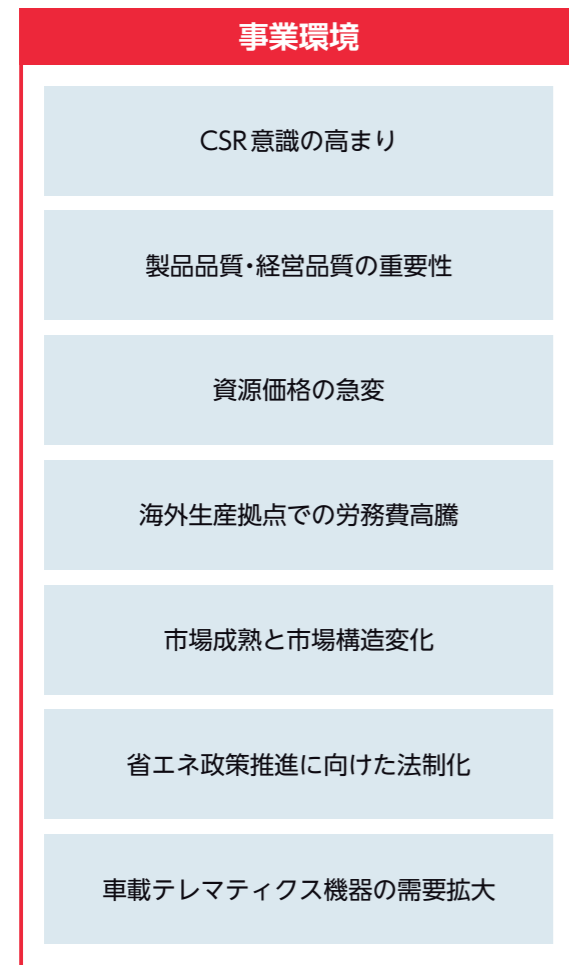
など



事業を通じたCSRによる 価値提供

FDKグループは、CSR基本方針にもとづく重点課題に継続して取り組むことによりグローバル企業として責任ある経営を推進し、これまで培ってきたコア技術をもとにした電池、蓄電システム製品、電子製品の開発・供給を通じて、社会課題の解決に貢献するFDKグループならではの価値をステークホルダーの皆様提供してまいります。

FDKグループを取り巻く環境



FDKグループのミッション 事業とCSRの統合

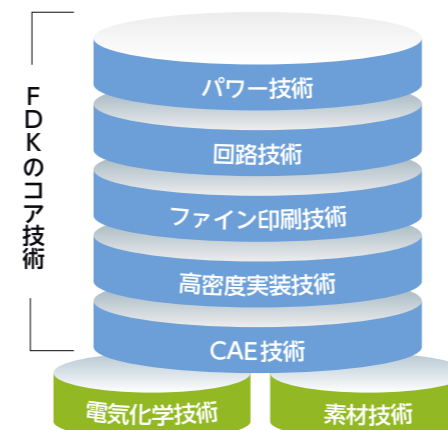
CSR活動における7つの重点課題

- ① 様々な形で社会に貢献する電池、電子製品を供給 ▶ P17
- ② 地球環境保全への対応 ▶ P27
- ③ 多様性の受容 ▶ P23
- ④ 地球と社会に貢献する人材の育成 ▶ P23
- ⑤ ステークホルダーとの対話と協力 ▶ P21
- ⑥ 法の遵守 ▶ P13
- ⑦ コーポレート・ガバナンスの強化 ▶ P14

FDKの事業

電池事業 電子事業

FDKのコア技術と強み



すべては「素材」から
FDKのテクノロジー

「電気化学技術」「素材技術」は、FDKテクノロジーの原点です。このテクノロジーは、FDKの電池と電子製品の核となる「コア技術」を生み出し、様々な機器で活躍しています。「電気を創る（高効率エネルギー変換）、蓄える（蓄電）、賢く使う（省エネ）」時代に求められる高効率で安全な製品の提供のため「様々な形で貢献できるスマートエナジーマネージャー」を目指してまいります。電池、電子製品の既存事業と、それぞれの保有技術のシナジーから生み出される蓄電システム製品、次世代の電池などの「新開発事業」を新たなビジネスドメインに加え、それぞれのドメインを事業環境の変化に応じて柔軟に組み合わせることで、価値ある製品を提供してまいります。

FDKの事業 活動を支える方針

FDK企業行動指針

FUJITSU Way

ステークホルダーにもたらす価値



* FDKグループは「お客様」「社員」「お取引先」「株主・投資家」「国際社会・地域社会」をステークホルダーとしています。

FDKグループにとってのCSRは、FDK企業行動指針と富士通グループの一員として、FUJITSU Wayの実践を通じて、様々な社会課題の解決に取り組み、地球と社会の持続可能な発展に貢献していくことです。



CSR マネジメント

FDKグループCSR基本方針

- FDKグループのCSR基本方針は、FDKグループで働くすべての人が積極的に実践すべき内容を示した「FDK企業行動指針」および富士通グループの一員としてのグループ理念である「FUJITSU Way」を実践することです。
- 我々は、「お客様にご満足いただける電池、電子製品の開発・供給により3E社会(環境保全・省エネルギー・経済発展)の実現に寄与し、様々な形で社会に貢献できるスマートエナジーマネージャーを目指す。」という方針のもと、すべての事業活動において、マルチステークホルダーの期待と要請を踏まえ「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」を実践することにより、地球と社会の持続可能な発展に貢献してまいります。
- CSRの実践にあたっては、7つの課題に重点的に取り組みます。
- これらの課題への対応を通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進します。

CSR活動推進体制

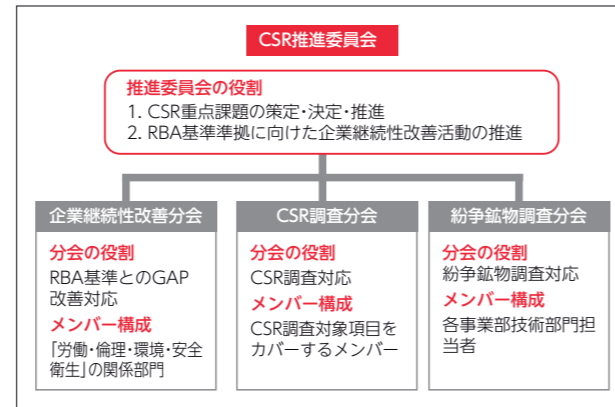
FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」の浸透、定着を一層推進するため、FDKではCSR推進委員会を設置しています。

CSR推進委員会は、FDKグループの横断的なCSRマネジメント推進のため取締役(コーポレート担当)を委員長、CSR・コンプライアンス統括部を事務局とし、7つの重点課題の取り組み状況の確認、CSRに関連した情報や取り組みの確認などにより持続可能な社会とビジネスの在り方などについて定期的なレビューを行なっています。

国際的なCSR規範であるRBA(責任ある企業同盟: Responsible Business Alliance)への準拠推進やお客様からのCSRに関する調査・要請への適確な対応、紛争鉱物*の適切なマネジメントを目的とした3つの分会組織を設け活動しています。またFDKグループのCSR基本方針、重点課題・施策、活動実績などを掲載し、方針、状況、課題の社内共有を目的とした社内ホームページを設けています。

*紛争鉱物: その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長している、あるいは、人権侵害、労働問題などと密接に関連している鉱物。
2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」においては、コンゴ民主共和国および隣接国において産出される鉱物のうち、タンタル、錫、金、タングステン、その他国務省が判断する鉱物を紛争鉱物として、米国内上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合の米国証券取引委員会(SEC)への報告義務などが定められた。

CSR推進体制図



CSRに配慮した調達活動

FDKグループは、「FDKグループCSR基本方針」、「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」にもとづき、お取引先とともに、CSRに配慮した調達活動を推進していくために「CSR調達指針」をまとめました。

本指針を遵守した調達活動をするとともに、サプライチェーンを構成するお取引先にも同様に本指針の遵守をお願いしています。

ステークホルダーの皆様とのつながり

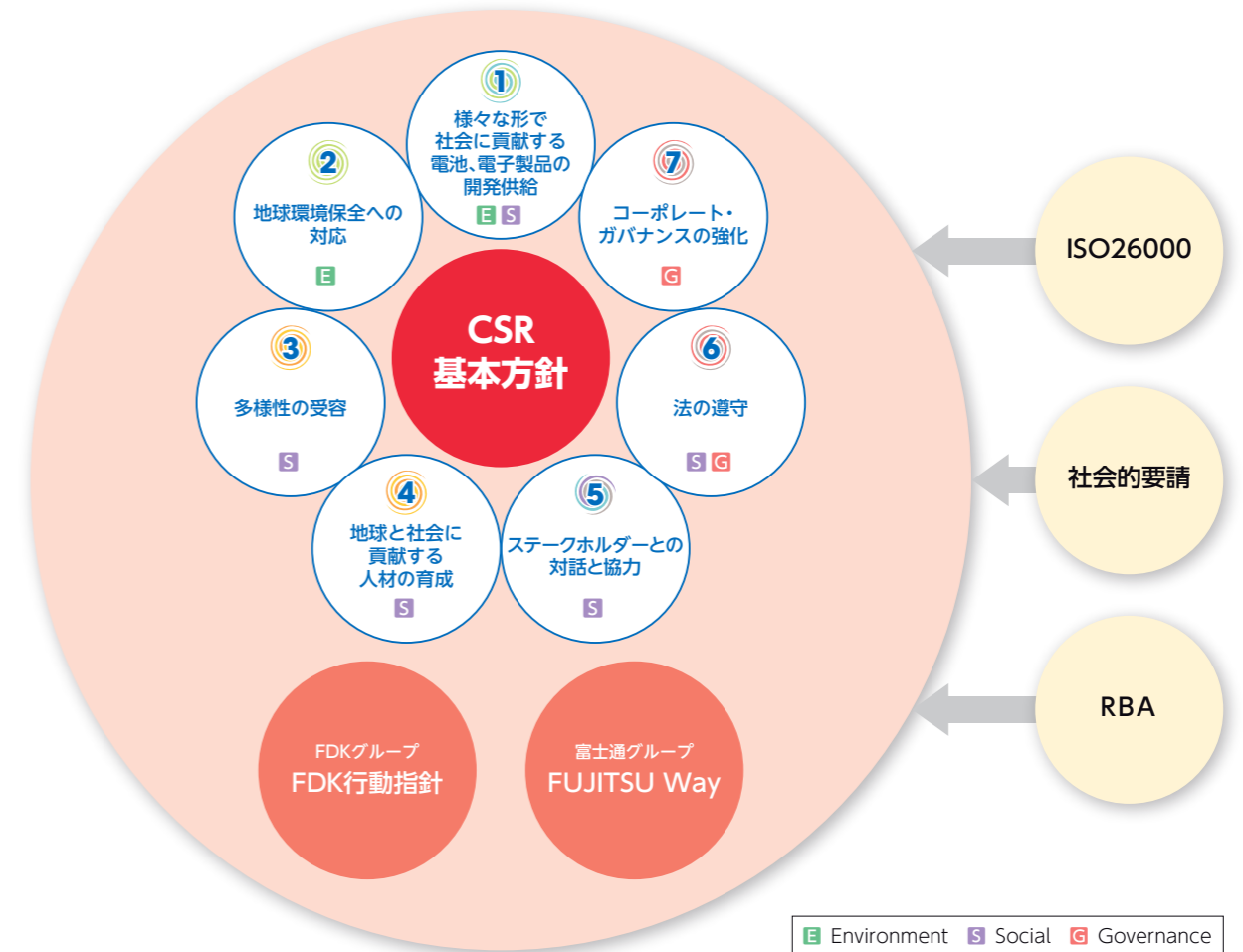
事業活動は、様々なステークホルダーの皆様との関わりの上に成り立っています。FDKは主要なステークホルダーをお客様、社員、お取引先、株主・投資家、国際社会・地域社会ととらえており、事業の継続と発展には、皆様との相互理解と信頼関係を築くことが重要だと考えています。

ステークホルダーとの関わり



FDKグループの7つの重点課題の位置づけ

FDKグループは、FDKグループのミッションと社会的要請事項、ISO26000、RBAの中核課題や重点課題において求められる事項など、その重要度、優先度を多角的に検討し、7つの重点課題を設定しています。



FDKグループの注力するSDGs

FDKグループのミッションは「電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献」することです。FDKグループは保有する技術により提供する電池製品、蓄電システム製品、電子製品およびそれらの生産プロセスを通じて、再生可能エネルギー活用による蓄電、消費エネルギー効率の改善、資源利用効率の向上、CO₂排出削減などの環境保全、イン

フラの改善、セキュリティ対策強化などに貢献しています。FDKグループの現有技術や製品により解決に貢献している社会課題、また今後の新たな事業施策や取り組みによる貢献の可能性も含めて、次の4つをFDKグループの注力するSDGsとして決めました。





7つの重点課題

FDKグループは、7つの重点課題に沿ったCSR活動を推進しています。この重点課題は、FDKグループの事業を通じての社会貢献と、ISO26000やRBAの中核課題や重点領域において求められる事項に積極的に取り組み、グローバル企業として責任ある経営を推進することを目的とし、重点課題として次のとおり設定しています。

重点課題	あるべき姿	重点施策	2017年度の取り組み		ISO 26000	参照
			目標	実績		
1 様々な形で社会に貢献する電池、電子製品を供給 様々な形で社会に貢献できるスマートエナジーマネージャーを目指し、お客様にご満足いただける電池、電子製品を開発し供給する。	保有技術を活かした市場ニーズに応える製品開発と供給を継続的に進め、環境変化に柔軟に対応することで、お客様に満足いただける信頼が置けるスマートエナジーマネージャーとして認知される。	<製品> 差別化技術から生み出した新たな付加価値を提供する製品の開発促進。 <取り組み> 素材を活かした製品を提供し続けることで、未来を育む企業としての価値を向上。	<製品> 市場ニーズに応える価値ある電池、電子製品の市場投入。 <取り組み> 市場リサーチの強化を進め、お客様や市場の動向を迅速に察知し、ニーズに即した技術開発提案の実現。	<製品> 高信頼性・高容量・リサイクル材料の使用・使用温度領域が広いといった特長をもつ電池、お客様の消費電力・部品員数の低減につながる電子製品など、カスタマイズ品を中心として市場ニーズに即した製品の開発、供給に加え、次世代電池の開発を継続。 <取り組み> 市場リサーチ、お客様への提案、ニーズに即した開発により新規顧客の獲得と取引拡大につなげた。		P17~20
2 地球環境保全への対応 高性能な電池、電子製品の供給によりグローバルな環境課題の解決に貢献するとともに、自らの調達・生産・供給において環境負荷を低減する。	環境問題を常に意識し、グリーンエコノミー時代の実現に向けての製品提供により社会全体の環境負荷・環境リスク低減に積極的に取り組んでいる。	全グループ生産拠点での環境に配慮した生産環境から環境配慮製品を製造。 <お客様の環境負荷低減> ライフサイクルを考慮した環境配慮製品開発の推進(高効率な製品、環境負荷の少ない材料を使用した製品)。 <自らの環境負荷低減> ・エネルギー消費CO ₂ 排出量の削減。 ・廃棄物発生量の削減。 ・化学物質排出量の削減。	省エネルギー型産業構造に適した小型化・軽量化・低消費電力・省電力化の電池・電子製品の提供に向けた対応強化と開発促進。 【電池製品】 ・省エネルギー効率製品の開発 各拠点1件/年以上。 ・省資源効率製品の開発 各拠点1件/年以上。 【電子製品】 ・エネルギー効率トップ製品開発率50%。 ・資源効率の向上率5%。 ・2018年度末までにエネルギー消費CO ₂ 排出量を2013年度比5%削減。 ・エネルギー消費原単位を年平均1%改善(省エネ法)。 ・2018年度末までに廃棄物発生量原単位を2015年度比3%改善。 ・2018年度末までにPRTR対象物質排出量原単位を2012年度比3%改善。 ・再生可能エネルギー(化石燃料に頼らない)を活用した生産によるCO ₂ 削減。 ・エコな梱包、エコな物流方法の検討。	工場内作業環境の改善・整備、生産工程合理化による省人化、製品品質改善として、合計65件の施策を実施。 ・エネルギー効率改善に寄与する製品開発は4拠点で達成、1拠点で未達成。 ・資源効率改善に寄与する製品開発は4拠点で達成、1拠点で未達成。 ・2017年度のエネルギー消費CO ₂ 排出量は、2013年度比15%削減。 ・エネルギー消費原単位を年平均1%改善について3拠点で達成、2拠点で未達成。 ・廃棄物発生量原単位を2015年度比2%(2017年度目標)改善について、全拠点で目標を達成。 ・PRTR対象物質排出量原単位を2015年度比2%(2017年度目標)改善について4拠点で達成、1拠点で未達成。		P27~P30
3 多様性の受容 企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、年齢、障がいの有無、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かす。	FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別*を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践している。 *国籍、人種、性別、宗教、信条、社会的身分、出身地、障がい、性的指向などによる不当な差別やセクシャルハラスメント、精神的もしくは肉体的な暴力などによる人権侵害	・すべての人に働きやすい職場環境の整備。 ・人事・処遇制度の改善。 ・研修、セミナーによる啓発活動の充実。	・ダイバーシティ推進の取り組み(組織風土の改革、個人の活躍支援、働き方の改革)。 ・人事・処遇制度の改善(キャリアの複線化、人員計画の見える化、職務区分ごとの等級別定義の策定)。 ・研修、セミナーによる啓発活動の充実(公的資格取得促進や資格保持者の活用など)	・ダイバーシティに関する社内ホームページの開設。 ・個人の活躍支援として、幹部社員マネジメントの研修(合計11回)、女性キャリアアップ研修を実施。 ・就業規則の改定、フレックス勤務制度の見直しを実施。 ・階層別研修について、人事制度、職務と等級定義を中心にカリキュラムを変更。 ・FDKグループ人材育成計画に沿い、研修区分を再構成。		P23~P26
4 地球と社会に貢献する人材の育成 グローバルな視点に立ち、他に先駆けて社会の発展に貢献する高い志を持った人材を育てる。	長期的視点に立ち、ビジネスを通じてグローバルに活躍できる人材を育成している。	・ビジネスを通じて地域・社会に貢献する人材の育成システム充実。 ・地域・社会とのつながりによるコミュニケーション力の育成。	・次世代ビジネスリーダー・プロフェッショナル人材の育成。 ・グローバル採用に向けた企画・施策の実施とセミナーの実施。	・次世代ビジネスリーダー研修の継続と外部に従業員を派遣。 ・幹部社員・階層別研修における商習慣、国際法、異文化コミュニケーションなどのカリキュラムを見直し。		P23~P26
5 ステークホルダーとの対話と協力 良き企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施する。	公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行ない、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的に進めている。	・ステークホルダーとの対話機会の充実と要請事項への的確な対応。 ・CSR報告書の発行。 ・お客様:情報提供要請に対する適切な情報開示。 ・株主、投資家:株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討。 ・取引先:双方向コミュニケーションの充実。 ・従業員:労使対話、満足度調査、経営トップとの対話。 ・地域社会:地域住民への社会貢献活動(地域住民交流会、清掃活動、工場見学、乾電池教室など)。	・CSR報告書の発行 ・適時適切な情報開示 ・取引先との双方向コミュニケーションの充実 ・拠点に応じた地域貢献活動の実施	・2017年6月にCSR報告書を発行し、次年度版の発行に向けた意見集約や分析を実施。 ・適時開示、お客様、外部からの問い合わせなど、適時適切な情報開示の実施。 ・調達先、業務委託先、人材派遣会社などの取引先に対してCSRに関する調査を実施。 ・各拠点にて、地域貢献活動を実施。		P21 P22
6 法の遵守 法令および社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動する。	経営者および全従業員が常に法令および社会的規範を遵守した行動をし、また新規・改正情報も迅速に認識、対応できている。	・企業継続性改善活動拡充(評価・改善、教育など)。 ・コンプライアンス関連規定の整備。 ・教育プログラムの策定、実施(行動指針、企業倫理面の海外拠点展開を含む)。 ・モニタリング強化。 ・新規、改正法令情報の的確な取得と反映。	・コンプライアンス関連規定の整備 ・e-learningの実施 ・内部通報窓口でのモニタリング強化 ・法令の制改定に関する情報取得と社内周知	・外為法に関する対応など、社内規則類の制改定を実施。 ・e-learningを使用し、コンプライアンス教育の実施。階層別研修における再教育を実施。 ・内部通報窓口における随時対応実施。 ・社内イントラネットを使った法令の制改定情報の配信実施。		P13~P16
7 コーポレート・ガバナンスの強化 基本方針の実現に向け、経営の透明性や監督機能の向上を図り、コーポレート・ガバナンスを強化する。	経営者はコーポレート・ガバナンスの本質をよく理解し、必要に応じた経営体制の見直し、組織の整備などを実施している。	・取締役会の監督機能が十分であり、監督と業務執行が分離され、的確な意思決定が行なわれる機関設計の検討。 ・取締役会の実効性の維持、向上を目的とした取締役会の評価(自己評価と外部機関による検証、継続的改善)およびトレーニングの実施。	・監査等委員会室の設置による社外取締役との円滑な情報共有と質の高い監査・監督。 ・取締役による取締役会の自己評価とトレーニングの継続 ・各グループ会社役員に対する、トレーニングへの参加。	・監査等委員会室を2017年4月に設置。 ・取締役実効性評価については、アンケート・ヒアリングにもとづくディスカッションを実施。トレーニングは、年度中2回実施に加え、執行役員が参加。		P13~P16

FDKグループは、CSR基本方針にもとづき、法令および社会規範の遵守を徹底し、経営の透明性、監督機能の向上や企業倫理の意識を高め、社会から信頼される企業グループであることが、継続的な企業価値の向上につながると考えています。



コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

FDKグループは、コーポレート・ガバナンスを充実することが、企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、金融商品取引所が定めるコーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じて経営体制の見直し、組織の整備、必要な施策を実施しています。

また、経営内容の迅速な情報開示に努めるとともに、インターネットを通じて財務情報の提供を行なうなど幅広い情報開示を図り、公正性と透明性を高めることにも努めています。

なお、FDKは経営の監督と業務執行体制を分離した事業運営を図るため、執行役員制度を導入しており、その体制は取締役兼執行役員2名と執行役員9名で構成されています。

取締役会

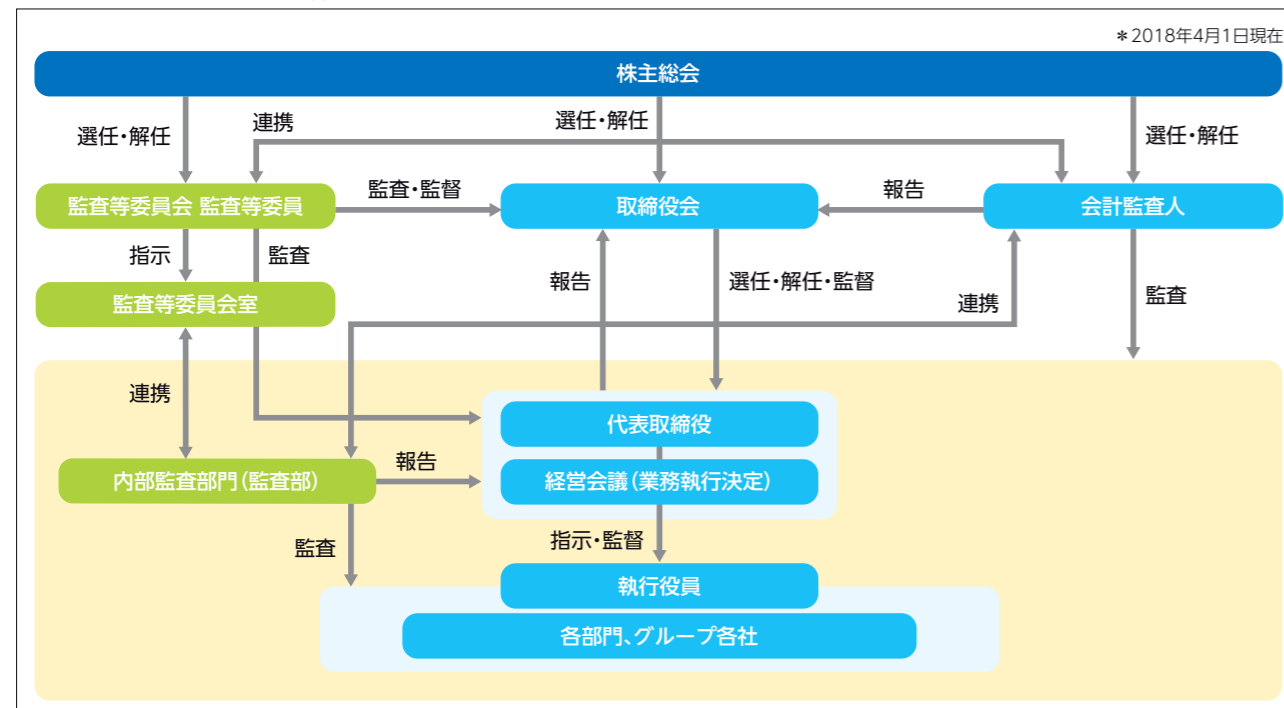
FDKの取締役会は、取締役(監査等委員を除く)4名と監査等委員である取締役3名で構成されています。取締役会は原則毎月1回開催し、経営に関する重要事項を決定するとともに業績の進捗状況についても議論し対策などを検討しています。

監査等委員会

FDKの監査等委員会は、社外取締役2名を含む取締役3名の監査等委員で構成され、原則毎月1回と必要に応じて随時開催し、経営の適法性および妥当性の監督、監査を行なっています。また、各監査等委員は、取締役会に出席し、経営全般または個別案件に関する客観的かつ公正な意見陳述を行なうとともに、監査等委員会で立案した監査方針に従い、取締役の業務執行の適法性、妥当性を監査しています。

なお、監査等委員である社外取締役との円滑な情報共有を行なうことにより、質の高い監査・監督を行ない、ガバナンスの強化に貢献することを目的として、監査等委員会室を設置しています。監査等委員会、監査等委員会室、会計監査人および監査部とは、相互の情報交換・意見交換を行なうなど連携を密にして、監査の実効性と効率性の向上を目指しています。

■ コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制

基本的な考え方

FDKグループは、企業の社会的責任を果たすためには、コーポレート・ガバナンスの充実が不可欠であるとの認識のもと、「内部統制システム構築の基本方針」を取締役に決議し、社員、取引先、地域社会などのステークホルダーとの健全で良好な関係を維持しつつ、業務の適正、財務報告の信頼性を確保するとともに、関連法規、定款を遵守する経営を実現しています。

コーポレートガバナンス・コードへの対応

FDKは、2018年6月にコーポレート・ガバナンス報告書を開示しています。2017年度は、Comply項目の充実に取り組みました。

▶ コーポレートガバナンス・コード 「基本原則4:取締役会の責務」の充実・強化

- ① 取締役トレーニング**
専門知識の更新および専門外知識の習得を目的として、取締役に加え執行役員も対象としたトレーニングを年間1回実施し、取締役の知識、知見の向上に取り組みました。
- ② 取締役会実効性評価**
従来のアンケートによる評価手法に加え、第三者機関による分析結果にもとづいたディスカッションで課題のさらなる深掘りを行ない、取締役会の監督機能強化に取り組みました。



取締役トレーニングの様子

法の遵守

基本的な考え方

FDKグループは、従業員一人ひとりの行動の基準となる「FDK企業行動指針」を2000年に定めています。この行動指針において、「法令および社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動する」という方針を明確に示し、消費者やお取引先様の信頼を得られるように努めています。この行動指針をイントラネットに掲載するとともに、各職場に掲示して全従業員が常に確認できるようにすることで、個人の自覚と行動をうながしています。

教育の実施

FDKグループでは、新入社員、新任課長などを対象とした階層別研修において、社内規則や外為法、製造物責任法、独占禁止法、個人情報保護法などの業務に関係の深い法令について解説を行ない、理解促進を図っています。このほかにも全従業員を対象とした、様々なコンプライアンス教育を実施しています。輸出管理および下請取引の分野については、各事業所において毎年講習会を開催しています。2017年度は全従業員を対象に、カルテル・談合/贈収賄に関するe-learningを実施しました。また、イントラネットを利用して、法令の改定情報や違反事例の紹介など、コンプライアンスに関する様々な情報を従業員に提供し、法令遵守に対する意識の向上に努めています。2017年度は、独占禁止法、特定商取引法などを題材として、17回の情報発信を行ないました。



集合研修の様子



事業運営に関わる法令の遵守

FDKグループの事業運営にあたっては、遵守しなければならない様々な法令、基準などがあります。これらに加えて、文化や慣習を理解し社会動向などに的確に対応することにより、倫理的な側面からもコンプライアンスの徹底を図っています。また、対象分野ごとに安全衛生委員会、環境管理委員会、含有化学物質管理委員会、輸出管理委員会、製品安全化推進委員会などの専門組織を設置し、法令などを遵守した事業運営に取り組んでいます。

安全衛生活動への取り組み、労災発生件数・対策

▶ 1. 安全衛生方針

労働災害はあってはならないを基本に、従業員の安全および健康の増進と確保を目指し、労働災害ゼロの達成に向け、自主的な安全衛生活動を体系的かつ継続的に展開し、全員参加による安全で快適な職場づくりを実践する。また、従業員の心の健康への対策は、従業員本人や家族の幸せにとどまらず、企業への信頼や円滑な事業運営といった観点からも重要であり、メンタルヘルスへの取り組みを強化する。



健康講座

▶ 2. 労働安全推進体制

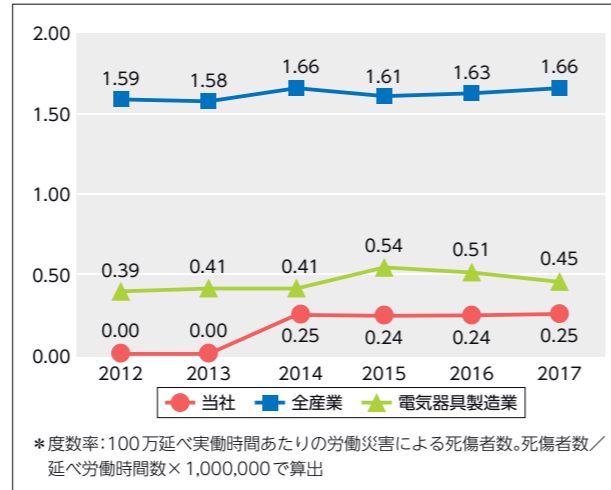
FDKグループでは、各事業所における「安全衛生委員会」を統括する機能として、社長および労働組合の委員長などで構成される「中央安全衛生委員会」を四半期ごとに開催し、各事業所での活動内容の情報共有を図ると同時に、全社的な活動内容を策定しています。

各事業所では、毎月「事業所安全衛生委員会」を労使合同で実施し、事業所に適した安全衛生活動を実施しています。なお、一部の事業所では国際規格の「OHSAS18001」を認証取得しています。

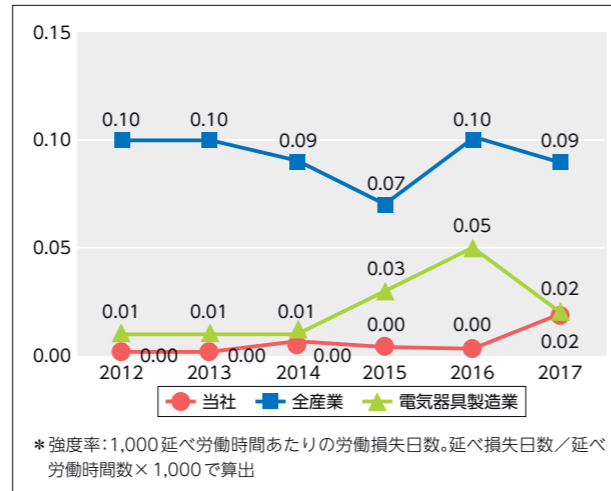
▶ 3. 労働災害の発生状況

2017年度は、3件(前年度は4件)の労働災害が発生しました。なお、災害度数率、強度率は全国平均および電気器具業界を下回る水準で推移しています。

■ 度数率推移



■ 強度率推移



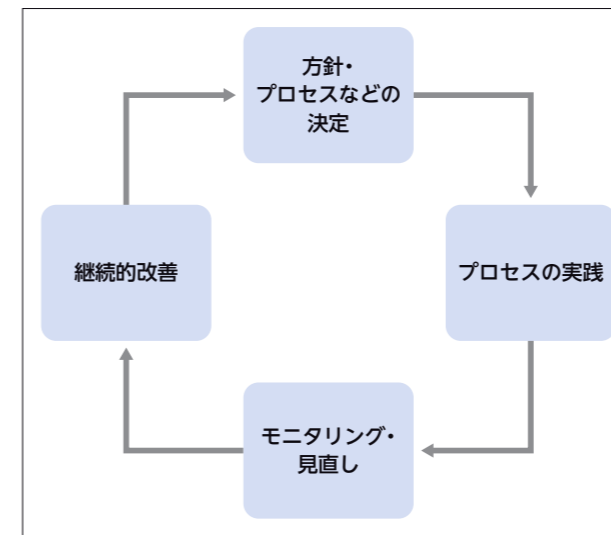
リスクマネジメント

▶ 1. リスク・コンプライアンス委員会

FDKグループにおける事業遂行上生じうる一定の損失を伴うリスクの顕在化を防止し、顕在化したリスクに適切に対応するとともに再発の防止を行なうため、「内部統制システム構築の基本方針」にもとづき、リスクマネジメントおよびコンプライアンスにかかる最高決定機関として、リスク・コンプライアンス委員会を設置しています。

▶ 2. リスクマネジメントのフレームワーク

リスク・コンプライアンス委員会は、FDKグループにおけるリスクマネジメントの状況を把握し、方針・プロセスなどを決定、実践するとともに、継続的な改善を行ないます。



▶ 3. リスクマネジメントのプロセス

各部門において、①事業活動に伴う潜在リスクを抽出、評価・検証します。②各リスクの対応優先度を明確化し、リスクコントロール(リスクの回避・軽減・移転・保有)の方針を決定します。③決定された方針に従って、各部門にて未然防止策を実行します。

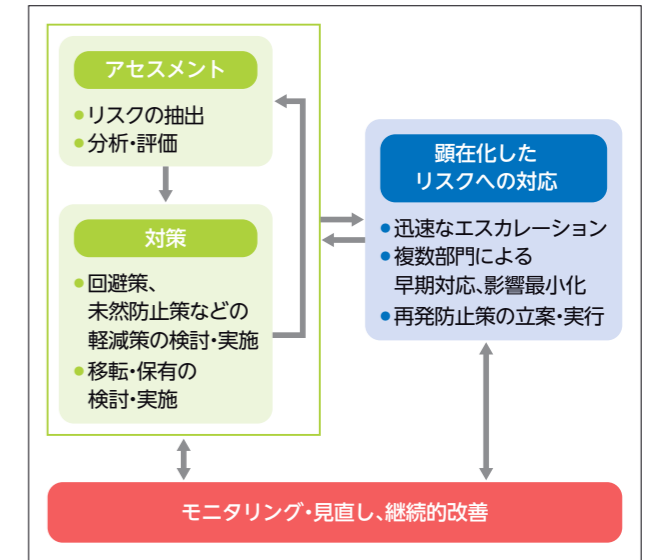
リスクが顕在化した場合には、各部門は迅速なエスカレーションを実施します。また、各関連部門、リスク・コンプライアンス委員会事務局などと連携し、適切な対応により、問題の早期解決、影響の最小化を図るとともに、原因究明に努め再発防止策を立案・実行します。

これらの各プロセスについても、実行状況を確認し、随時改善を図っていきます。

危機(顕在化したリスク)の例

- ① 自然災害・事故
- ② 製品トラブル
- ③ 企業攻撃・コンプライアンス違反
- ④ 情報セキュリティトラブル
- ⑤ 環境問題 など

■ リスクマネジメントのプロセス図

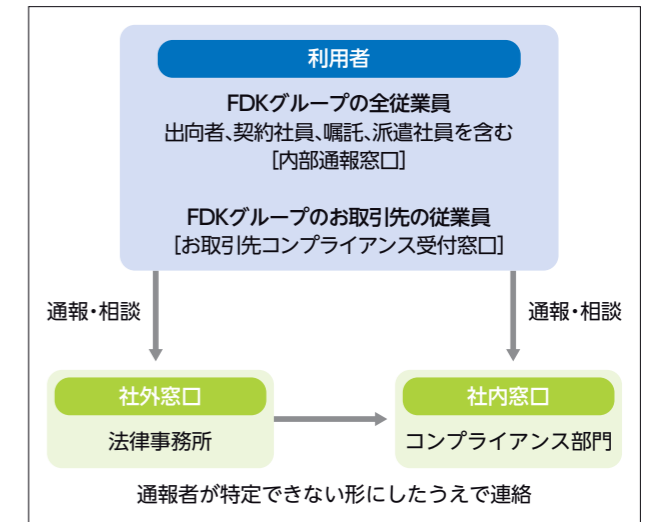


内部通報制度

FDKでは、社内ルール違反や法令違反行為に関する通報・相談を受け付ける「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」を設置しています。

「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」においては、「内部通報規程」によって通報者の秘密が確保されるとともに、通報を行なったことによるいかなる不利益も受けないことが保証されています。通報にもとづく調査の結果、問題が認められた場合は、すみやかに改善措置を講じています。なお、2017年度には1件の通報があり、適切な対応を実施しました。

■ 内部通報制度



FDKグループは、モビリティ事業領域を中心にお客様に「One FDKで価値を提供」することによって、スマートエナジーマネージャーとして電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献し、また環境変化にも柔軟に対応することで、お客様にご満足いただけ、信頼を置いていただけるよう、活動を推進しています。

様々な形で社会に貢献する 電池、電子製品を供給

基本的な考え方

FDKグループは、保有技術を活かして市場ニーズに応え、高品質で安全な環境にやさしい、お客様にご満足いただける電池、電子製品を継続的に開発・供給するという考え方のもと、市場ニーズに応える製品開発、供給、品質保証体制の構築、グリーン調達の推進に努めています。

FDKグループの取り組み

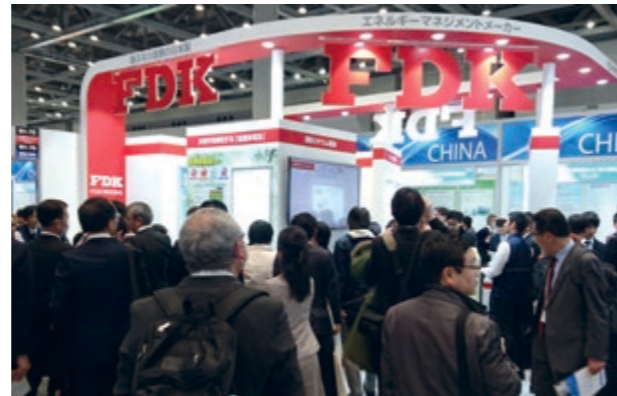
環境法や環境上の規範を遵守し、地球にやさしい素材を活かした電池、電子製品を提供し続けることで、未来を育む企業としての価値の向上を進めています。その一環として、これまでの経験から蓄積されてきた差別化技術を用い、そこから生み出される新たな付加価値が提供できる製品の開発に取り組んでいます。

特色のある差別化技術がもたらす「安心の提供」、 「環境への責任」

FDKは電池と電子製品の技術を併せ持つ世界的にも稀有な企業グループです。そうした特色が活かされた差別化技術は、一例として電池、電子製品でお互いの長所を融合した技術で蓄電システム製品を生み出しました。お客様や市場が求める地球環境に配慮した製品を常に供給し続けることを心掛け、製品開発に取り組んでいます。また、FDKの製品をより身近に感じていただくために、各種展示会に積極的に出展を行なっています。

2017年度におけるお客様へのご紹介

FDKは、医療機器の展示会「MEDTEC」や電子部品技術展の「TECHNO-FRONTIER 2017」、二次電池・蓄電池の製造・開発に関する世界最大の展示会「国際二次電池展」をはじめ、2017年度に合計11の展示会に出展し、FDKグループの電池、電子製品の技術、製品をご紹介するなど、電池・電子の新製品でFDKグループの技術力や社会課題の解決に貢献する製品をアピールしました。

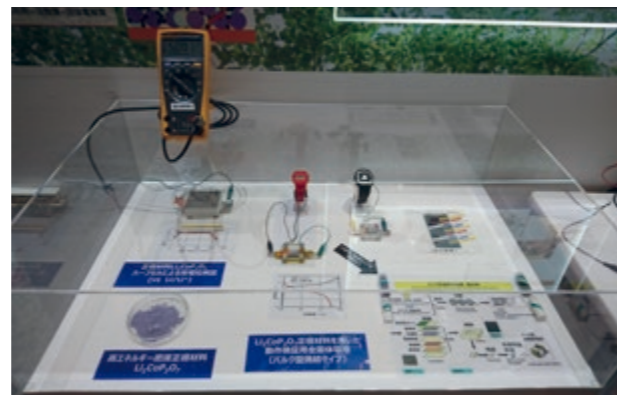


国際二次電池展

次世代へ向けた製品開発

▶ 高エネルギー密度を有する 全固体電池の開発

材料がすべて固体のため液漏れがなく、主に可燃性の有機系材料を使用している既存のリチウムイオン電池と比較し、高い安全性を有する全固体電池の開発を進めています。IoT (Internet of Things)、ウェアラブル、モバイルなどの機器の小型化に貢献します！



全固体電池 (動作検証用試作品)



2017年度の目標と実績

製品

- 市場ニーズに応える価値ある製品を成長期待の大きなインダストリアル市場向け継続的投入
- 電池・電子の保有技術を利用し、市場ニーズに応える製品を市場投入
- 高特性と高品質を併せ持つ新磁性材料の開発と製品展開
- 大型システム電源技術の応用により高付加価値化を図った電源関連製品の積極的投入

取り組み

- 市場リサーチの強化を進め、お客様や市場の動向を迅速に探知し、ニーズに即した技術開発提案の実現
- お客様や市場の期待を超えた営業活動による信頼関係の強化
- BCPにもとづく継続的改善を行ない、様々なリスク発生時の早期復旧を実行

製品

- アルカリ乾電池
高信頼性(未使用漏液・過放電漏液性能の向上)・高性能電池の開発について開発スケジュールに沿って開発を継続しています。
- ニッケル水素電池
性能、リサイクル性の向上など、お客様のご要望や環境課題に対応した製品の開発、量産化に努めました。
- システムビジネス
お客様からの高電圧対応モデルや低コストなモデルといったご要望の製品化に取り組み、いずれも開発が完了し、引き続きさらなる改善を進めています。
- リチウム電池
テレメティクス機器向けモデルの開発に加え、薄形一次電池のビジネス拡大と薄形二次電池の商品化に向けた取り組みを実施しました。

電子製品

- お客様の消費電力の低減に貢献するフェライト、コイルデバイス、積層パワーインダクタの開発を完了したことに加え、引き続きさらなる製品特性の向上に向けた改善を進めています。お客様の消費電力・部品数数の低減に貢献する各種モジュール製品については、DC-DCパワーモジュールが量産されたほか、お客様のご要望に応じたカスタマイズ、小型化したモデルの開発など開発を継続しています。
- 研究開発
高い安全性を有する全固体電池の開発を継続し、前期に開発した全固体電池用正極材料の特性向上に加え、早期の製品サンプル出荷に向けた実用化技術の開発を推し進めました。

取り組み

- 市場リサーチの強化を進め、お客様や市場の動向を迅速に探知し、ニーズに即した技術開発提案の実現に向け、組織体制を見直し、また、昨年構築したBCMの運用を今年度も継続しました。

主要製品一覧





品質や安全に配慮した開発

▶ 1.FDKグループ品質方針

スローガン

品質方針 「お客様の信頼に応える品質の提供」

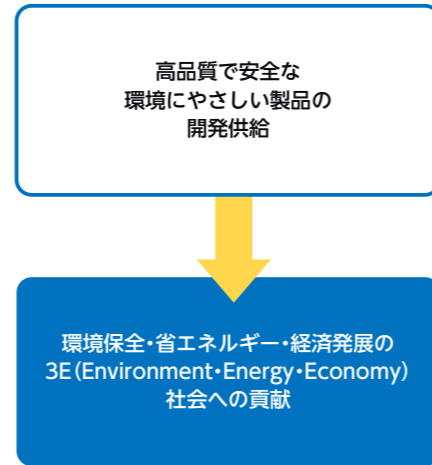
理念

FDKグループは、品質第一を基本的な考え方として、高品質で安全な環境にやさしい、お客様にご満足いただける電池、電子製品を開発・供給して、環境保全・省エネルギー・経済発展の3E (Environment・Energy・Economy) 社会に向け貢献することを使命としています。

また、企業責任を問われる重大な品質事故や世界各国の法規制違反など絶対に起こしてはならないと認識しています。そのため、営業から研究・企画・開発・設計・生産さらに顧客サービスなどのすべてのステップにおいて、全部門がお客様起点で行動して、より確かな品質経営を実行します。

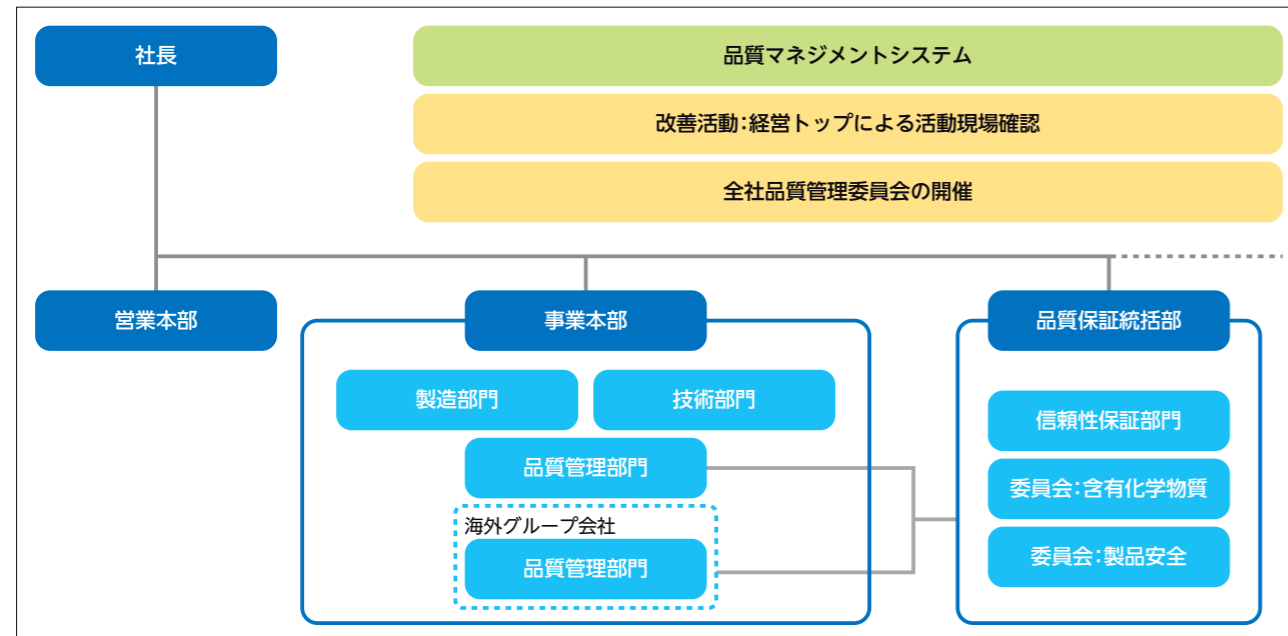
行動指針

1. お客様の品質要求事項は、最優先事項として迅速かつ適切に行動し顧客満足度を向上する。
2. お客様にご満足いただける品質・価格・納期の実現と環境保全に配慮した開発段階での源流活動を強化し、量産段階における品質トラブルの未然防止、納期の遵守、環境保全の向上につなげる。
3. 製品安全、含有化学物質など各種コンプライアンスに関わるリスク管理を継続強化する。
4. 品質マネジメントシステムを継続的に改善して、より効果的な品質経営を行なう。



▶ 2. 品質保証活動組織・体制

■ 品質保証体制図



▶ 3.ISO9001/IATF16949 認証取得状況

FDKは、品質マネジメントシステム(QMS:Quality Management System)のもとで継続的なプロセス改善に取り組んでおり、2017年末現在、海外を含めた全13拠点でISO9001認証を取得し、うち5拠点でIATF16949認証を取得しています。

▶ 4. 品質保証の取り組み

①品質保証体制

お客様が要求する機能・性能・その他内容を満足する製品・サービスの品質を提供するためには、経営層と様々な部門が連携し企業活動の全段階にわたり、全員参加活動が必要です。このため組織が一体となる体制や仕組みが無いと継続して活動ができません。

FDKでは、QMSを構築・運用しており、製品企画から製造・出荷・アフターサービスに至るまでの各ステップで、お客様にご満足いただける品質を実現し保証していきます。

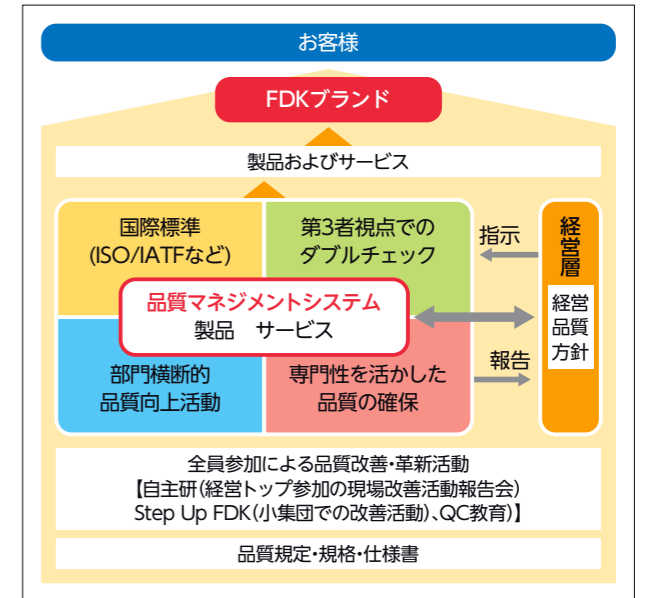
これらQMSの運用においては、ISOなどの国際規格にもとづき、PDCA (Plan Do Check Action) のマネジメントサイクルを回し、より良い品質を目指し、継続的改善を図っています。

②品質保証の推進体制

FDKは多岐にわたる製品群、海外を含めた各事業拠点の品質保証活動における「One FDK」を目標に掲げた連携活動

にも取り組んでいます。品質保証統括部では、その活動を牽引すべく全事業部との定期的な打合せによる情報共有、品質方針策定、コンプライアンスに関わる問題や品質トラブル発生時のエスカレーション、人材育成のための教育、不具合事例やノウハウなどに対する水平展開に積極的に取り組んでいます。

■ 品質保証の枠組み

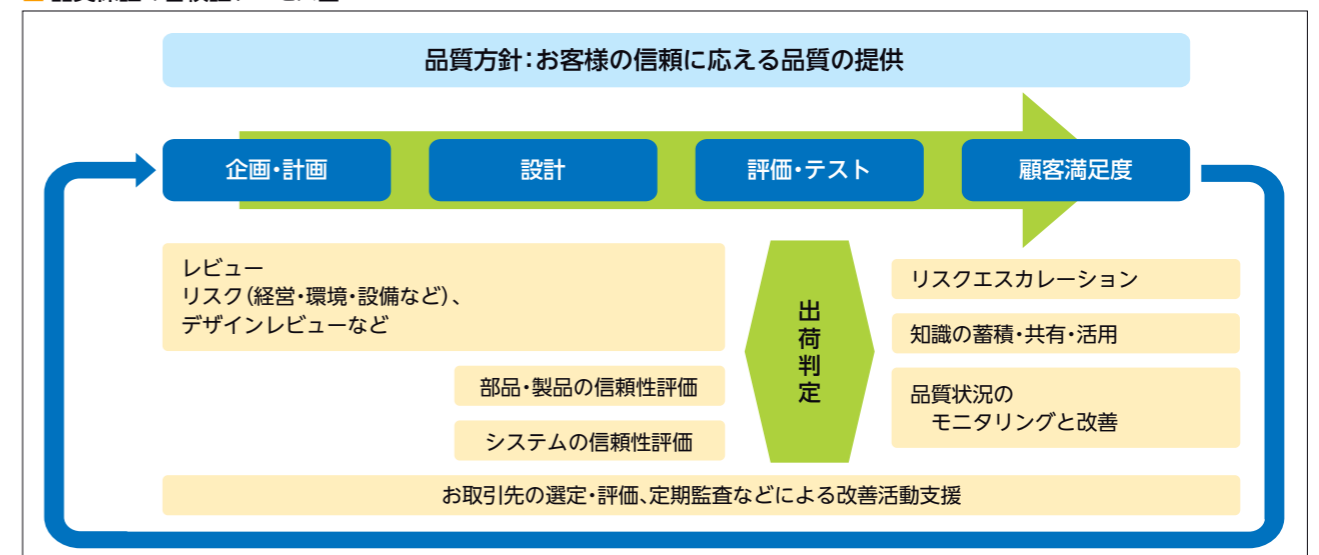


品質保証強化への取り組みの改善プロセス

▶ 1. 客観的な視点による製品サービスの品質保証活動

品質方針であるお客様の信頼に応える品質を提供するために、企画から量産移管に至る各検証プロセスにおいて、品質関連規定や細則にもとづき自部門だけでなく関係部門を交えたOne FDKでの広い知見でレビューを実施し、より客観的な検証を強化しています。

■ 品質保証の各検証プロセス図



▶ 2. グリーン調達への取り組み

FDKグループは、環境負荷を考慮した事業活動と環境配慮製品の提供により持続可能な社会の発展に貢献しています。「FDKグループ グリーン調達基準」にもとづいた環境に配慮した調達品の使用を通じて、お客様へ環境配慮製品を提供しています。

FDKグループは、良き企業市民として、ステークホルダーとの対話を通じて多様な期待と要請を理解するとともに、地域貢献活動をはじめとした社会への様々な貢献活動を継続的にこなっています。



ステークホルダーとの対話と協力

基本的な考え方

FDKグループは良き企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施することを方針としています。公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行ない、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的にこなうことにより企業価値の向上に努めます。

2017年度の目標と実績

ステークホルダーとの対話機会の充実と要請事項への的確な対応

- ① CSR報告書の発行
(16年度版の発行完了と17年度版の立案、作成開始)
- ② お客様: 情報提供要請に対する適切な情報開示
- ③ 株主、投資家: 株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討
- ④ 取引先: 双方向コミュニケーションの充実
- ⑤ 従業員: 労使対話、満足度調査、経営トップとの対話、リスクマネジメント推進
- ⑥ 地域社会: 地域住民などへの社会貢献活動(地域住民交流会、清掃活動、工場見学、乾電池教室など)

- 2017年版CSR報告書は2017年6月に発行しました。当社従業員、外部の方などからの評価を確認し、2018年発行版の検討を進めています。
- お客様からの会社概要などの問い合わせの対応や展示会に出展し、お客様への適切な情報提供に努めました。
- 外部のステークホルダーに対しては、当社ホームページ上の適時適切な開示に努めました。
- 調達先、業務委託、人材派遣会社に対して、CSR調査を実施するとともに、労働関係を主とした自社チェックリストを展開しました。
- 従業員に対しては、引き続き定期的な労使対話に努めました。2017年度は、リスクマネジメントを推進し、リスク・コンプライアンス委員会を2017年9月に設置しました。
- 地域社会への貢献活動などについては、下の表のとおりです。

地域社会への貢献活動

FDKグループでは、ステークホルダーとの対話機会の充実を図る取り組みの一つとして、地域社会への貢献活動に積極的に取り組んでいます。

FDKの事業の特徴を活かした小中学生に対する乾電池教室や出前環境授業、工場見学会、また地域と密着した清掃活動やイベントへの参画、募金・寄贈・献血活動など様々な活動を年間を通じてグループ会社の工場を含めた全事業所で行なっています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本社	●富士通川崎工場春祭りでの乾電池教室実施					●富士通本社(夕留)親子工場見学会での乾電池教室実施						
湖西工場		●フェスタFDK実施	●浜名湖クリーン作戦に参加 ●工場内で献血実施	●夏の全国交通県民運動 鷺津駅前立哨指導実施	●湖西おいでん祭に参加 ●富士通東海支社ファミリーDAYでの乾電池教室実施	●夏の全国交通安全運動 鷺津駅前立哨指導実施		●県立新居高校での在学者訓練講師派遣 ●湖西市青少年の科学実験に参画	●年末全国交通安全運動 鷺津駅前立哨指導実施			
山陽工場	●工場内で献血実施 ●工場内周辺清掃活動	●工場内周辺清掃活動	●工場内周辺清掃活動	●工場周辺清掃活動	●介護福祉施設清掃ボランティア 	●列島グリーンキャンペーン ●工場周辺清掃活動		●工場周辺清掃活動(毎稼働日)	●工場周辺清掃活動(毎稼働日)	●工場周辺清掃活動(毎稼働日)	●工場周辺清掃活動(毎稼働日)	●工場周辺清掃活動(毎稼働日)
鷺津工場		●フェスタFDK運営協力	●浜名湖クリーン作戦に参加  ●工場前県道清掃活動 	●豊橋市立多米小学校教諭工場見学会受入	●杏林様主催「第9回親子乾電池教室」実施 ●沼津市主催「エコ教室」で手作り乾電池教室実施(於)富士通沼津工場 	●湖西市社会福祉協議会へ古切手、ベルマークを寄贈	●湖西市立鷺津小学校3年生工場見学会受入 	●湖西市立鷺津中学校2年生職業体験受入	●ポリテクカレッジ浜松工場見学会受入 	●工場内で献血実施 ●静岡県立新居高校インターンシップ ●湖西市岡崎地区老人会工場見学会受入 ●静岡県立浜松工業高校工場見学会受入	●工場内周辺清掃活動 ●介護保険制度および認知症セミナー 	●湖西市社会福祉協議会へ古切手、ベルマークを寄贈
高崎工場	●家族工場見学会および環境授業	●工場内で献血実施	●会社周辺清掃活動		●第43回高崎まつりリサイクルステーション協力		●群馬高専総合工学授業実施 ●高崎市立浜尻小学校4年生親子環境授業 	●工場内で献血実施				
鳥取工場	●道の駅構内の清掃活動および花壇の除草実施	●道の駅構内清掃活動	●道の駅構内清掃活動および花壇の土の入れ替え実施 	●工場内で献血実施 ●道の駅構内清掃活動 	●岩美町転入教職員工場見学会受入 ●地域貢献活動(浦富海岸清掃参加) 	●道の駅構内清掃活動 	●道の駅構内清掃活動および花壇の花植え替え実施	●道の駅構内清掃活動	●河崎地区歩道除雪作業および岩美町シルバー人材センター作成のお正月しめ縄飾りの社内斡旋と配布		●河崎地区歩道の除雪作業 ●PFUブルーキャッツのチャレンジリーグ応援団結成	
FDKエンジニアリング			●EGクリーン作戦の実施					●EGクリーン作戦の実施				

FDKグループは、社員一人ひとりがその能力を十分に発揮できるとともに、社会に貢献する高い志を持ち、組織とともに成長できるよう、様々な取り組みを行なっています。



多様性の受容、地球と社会に貢献する人材の育成

基本的な考え方

FDKグループでは、国籍、性別、年齢の違いや障がいの有無などにかかわらず多様な人材を受け入れ個人を尊重し合うことで、社員一人ひとりと組織がともに成長したいと考えており、様々な価値観や働き方を取り入れ、企業価値を高める「経営戦略」として、ダイバーシティに取り組んでいます。また、グローバルな視点に立ち、社会の発展に貢献する高い志を持った人材の育成に取り組んでいます。

人権尊重への取り組み

FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践するために、研修、セミナーによる啓発活動を行なっています。

ダイバーシティの取り組み

▶ マイルストーン

第1期 2014~2016年度 認知・理解 女性活躍支援プロジェクトの趣旨理解 社員が活躍できる環境整備	第2期 2016~2017年度 理解・実践 価値観の多様性が強みとなる企業 多様な働き方と生産性向上	第3期 2018年度~ 実践・ビジネス貢献 個人のやりがい・働きがいの向上
---	---	---

▶ 第1期:2014~2016年度(認知・理解)

- 女性社員の活躍機会の拡大と支援を目的として「女性の活躍支援プロジェクト」を発足し、意識の向上や就業面の改善に取り組みました。
- 仕事、家庭、地域生活の調和がとれた生活の実現に向け、各拠点にて「男女共同参画」に加入しています。



湖西工場・鷺津工場



山陽工場



鳥取工場

- 2015年8月に「女性活躍推進法」が制定され、FDKでは2021年度までに管理監督職の女性の人数を2015年度比で125%以上にすることを掲げ、女性が安心して働き、活躍できる環境づくりに取り組んでいます。

人権尊重にかかる2017年度の目標と実績

▶ 人権に関する啓発活動

12月の人権週間にあわせて人権啓発活動を行ない、人権尊重の意識を広げる。

- 人権意識の向上を目的としたセミナーの開催
- 「人権啓発リーフレット」の全員配布

人権に関する教育・研修

各種研修会カリキュラムに人権研修を組み込み、積極的に人権について考える機会を設ける。

- マネジメント研修
- 新任課長研修
- 主任昇格者研修
- 中堅社員研修 など



人権セミナー

▶ 第2期:2016~2017年度(理解・実践)

- 制約のある無しにかかわらず将来のキャリアを自律的に描き、幹部社員はその成長を期待・支援する、そのようなサイクルが回り続ける組織の進化に向けた取り組みを展開しています。

▶ 第3期:2018年度~(実践・ビジネス貢献)

- 「ダイバーシティ&ワークライフバランス」を重要な経営戦略とし、働き方改革に取り組めます。

ダイバーシティ推進の体制

2014年度より女性社員の働きやすい環境整備を進めてきましたが、その後、男女にかかわらず個の成長とそれによる新しい価値の創造を目指し、「多様な人材の活躍支援」と「多様な働き方の実現」の2つを軸にしダイバーシティを推進しています。

▶ ダイバーシティの方針

ES(従業員満足度)調査で抽出された課題、社長と社員の座談会での意見、女性社員を対象にしたダイバーシティに関するアンケートの結果より、次の2点を掲げ推進しています。

個人の成長・やりがいの向上

社員一人ひとりが、お互いを認め、自分ならではの付加価値を発揮し、組織に貢献する。

企業の競争力強化・成長

多様な視点から自由闊達に議論することで、新たな知恵と技術を創造し続ける。

ダイバーシティにかかる2017年度の目標と実績

▶ 意識改革、組織の風土改革

- 全幹部社員を対象とした職場マネジメントセミナーの実施

▶ 一人ひとりの意欲の発揮に向けた働きがいの向上

- 上位階層向けリーダーシップ研修の実施
- キャリア形成の構築と周りの支援強化

▶ 総労働時間低減によりワークライフバランスの意識向上

- より少ない時間で高い成果を生み出せる環境の整備
- 業務の標準化、マニュアル化、一人作業の廃止
- 会議、資料作成時間の削減
- ノー残業デーの徹底

▶ 女性活躍推進法の推進

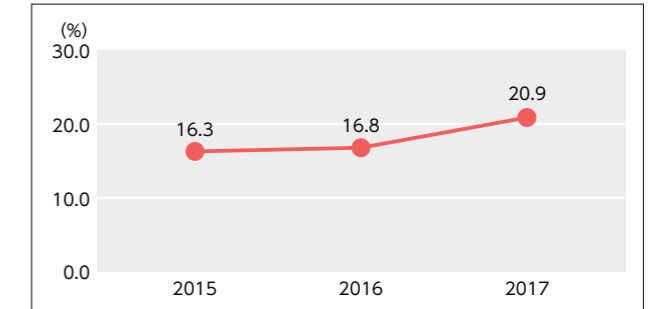
- 女性の意識改革と監督職の増員



女性キャリアアップ研修

上記を含み、2017年度は、ダイバーシティにかかるセミナーを合計20回実施しました。

■ 女性社員の雇用比率



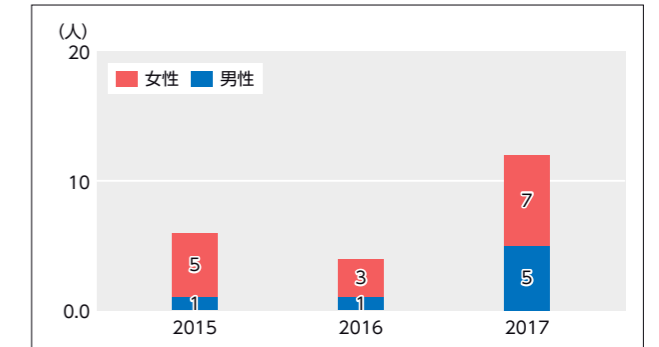
▶ ダイバーシティ&インクルージョン推進のメッセージ発信と啓蒙活動の推進

- 役員によるイクボス宣言
- 啓蒙資料による意識の醸成

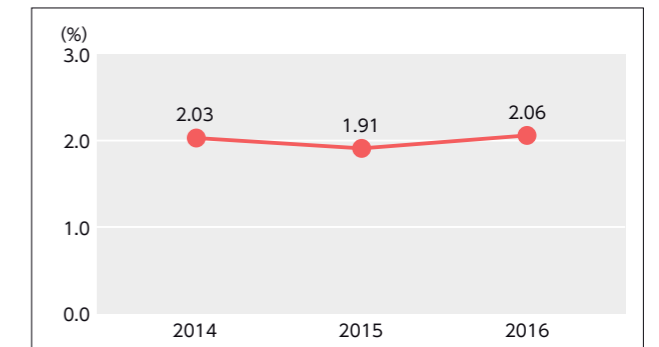


役員のイクボス宣言

■ 育児休職制度の利用者数



■ 障がい者雇用率の推移





VOICE



「認める・活かす・高めあう」
組織に！

ダイバーシティ推進室長
野澤 操

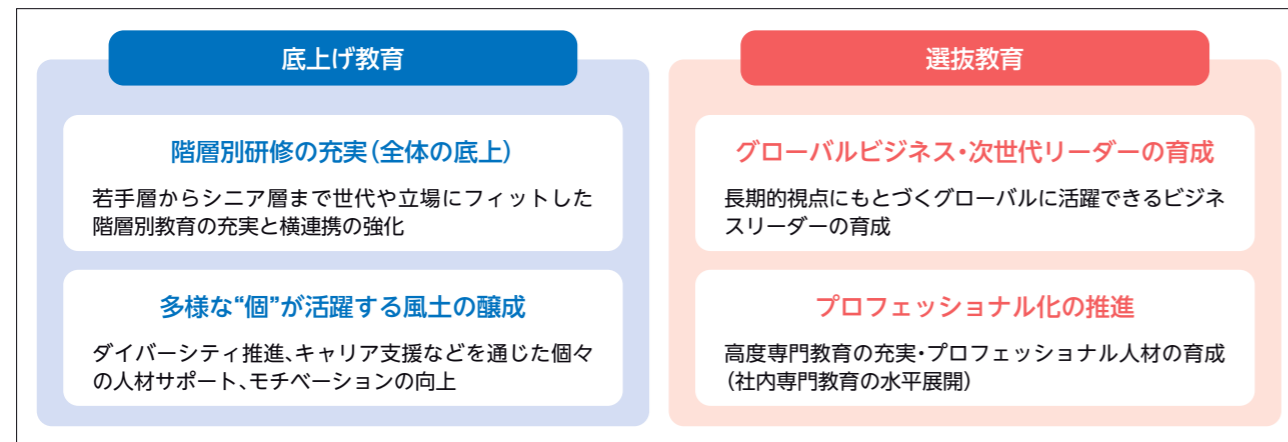
人によって考え方・生き方・働き方は様々で一人として
同じ人間など存在しません。

まずは、一人ひとりの「違い」に気づき、お互いに「認め」、多様な人材が持つ視点・発想や価値観を最大限に活かせるそんな会社になりたいと思っています。ライフイベントの変化に応じて、最も効率的な働き方が選択できる仕組みをさらに拡充し、すべての社員が「働きやすさ」を感じながら活躍し続けられる、『業界一のWork Life Balance企業』を創っていきます。

人材育成方針

▶ 人材育成の4テーマ

FDKグループの人材育成については大きく4つのテーマに分けて考え、それぞれのテーマに沿った教育に取り組んでいます。



取り組み事例

▶ 階層別研修の充実

2017年度は、階層別研修の充実を目的に研修区分新設、カリキュラムの見直しを図りました。

研修区分の新設

- 新任部長研修
組織上の立場や役割を再認識し、経営戦略、各種マネジメントに必要な変革力、構想力、育成力を強化し、部長に要求される組織・職場マネジメントを高める。
- 中堅社員研修(アドバンス)
中堅社員の自覚と行動を理解し、必要な知識、技術(上司、部下などの周囲の関係者を巻き込みながら、成果を目指す)を向上させる。さらに、組織に働きかけるマネジメントを高める。

カリキュラムの見直し(TPS、2S/5S活動の追加)

- 新任幹部社員研修
- 主任昇格者研修
- 中堅社員研修(ベシック)

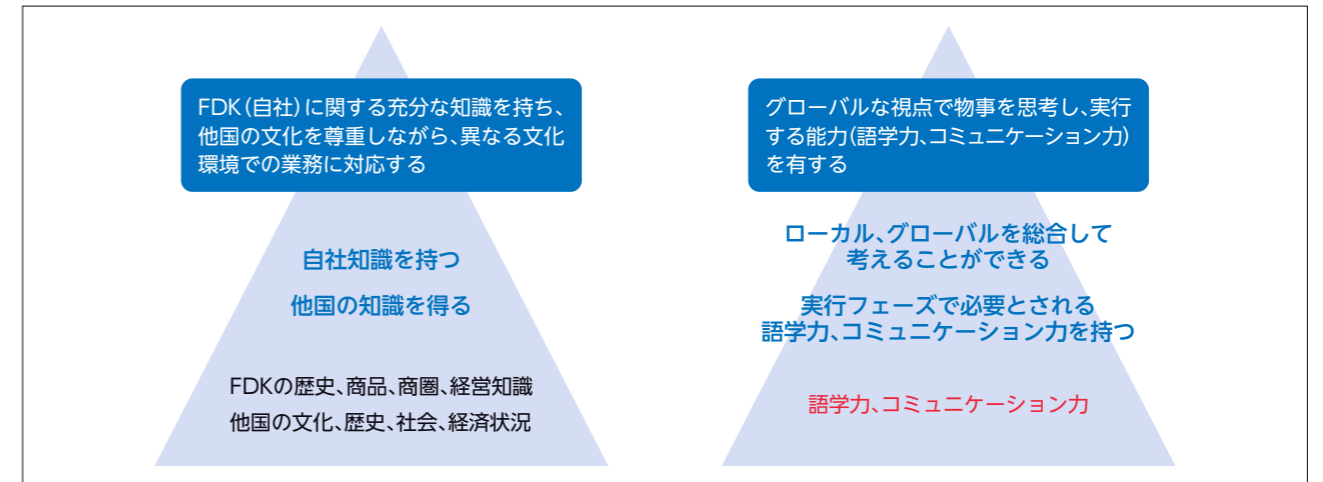
▶ 専門能力強化

静岡大学工学部・電気電子工学コースの教授をお招きし、「パワーエレクトロニクスセミナー」を開催しました。技術のさらなるブラッシュアップと技術イノベーションに果敢に挑戦する技術者集団の創造を図り、「様々な形で社会貢献できる、スマートエナジーマネージャー」を目指します。

▶ グローバルビジネスリーダー育成

FDKでは、グローバル人材を「自社に関する十分な知識を持ち、他国の文化を尊重しながら、異なる文化環境での業務に対応する」「グローバルな視点で物事を思考し、実行する能力(語学力、コミュニケーション力)を有する」と定義しています。

■ グローバル人材イメージ図



2017年度はグローバル人材に必要な語学力獲得のための学習環境を見直しました。

自己学習プログラムに提携会社を追加し、全事業所に対して平等な学習機会を提供するとともに、様々な学習形態(通学、eラーニング、オンライン英会話)を選択可能としました。また階層別研修において「TOEIC」を実施することで、自身の語学力を認識する機会を設けています。

▶ 次世代ビジネスリーダー育成

FDKでは、社会との関わりを見据えた広い視野を持つ「主体的で自立した個」を育成し、社員の意識改革、思考改革を社内に展開、普及させていくことで、環境の変化を機敏に察知し、変化に対応できる強い組織の実現を目的とした次世代ビジネス

リーダー育成のための研修を開催しています。この研修は、漏れのない発想・新たな想像・気づく力を向上させるため、様々な視点で物事を見て考えることを主体としています。2017年度は18名が年間を通じて参加しました。

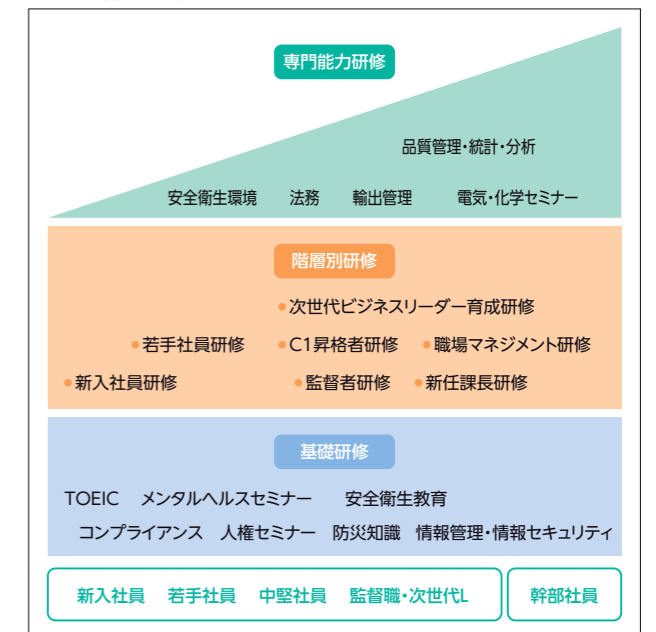


次世代ビジネスリーダー研修

人材育成体系

全社員が共有すべき知識や技能および基本行動に関する「基礎研修」、新入社員から幹部社員までそれぞれの立場・役割に応じた「階層別研修」、そして職種の専門性を高める「専門能力研修」の3区分に応じた教育を実施しています。

■ 人材育成体系図



FDKグループは、環境問題を常に意識し、電池、電子製品の供給により社会全体の環境負荷・環境リスクの低減に貢献することに加え、自らの調達・生産・供給において環境負荷の低減に取り組んでいます。



地球環境保全への対応

基本的な考え方

「FDKグループは地球を愛します かぎりある自然のために」のスローガンのもと、FDKグループでは、美しい地球環境が次の世代へと受け継がれるよう、環境保全を経営の最重要事項の一つと位置づけており、事業の独自性を反映させた環境経営を推進しています。

FDKグループ環境憲章

FDKグループは、富士通グループの一員として企業の事業活動に伴う環境保全への取り組みについて、各国、地域の法規制対応や、温室効果ガス削減、廃棄物削減、化学物質管理の徹底のみならず、提供する製品を通しての環境負荷低減など、地球規模の視点で主体的に持続可能な循環社会実現に向けて行動しなければならないと認識しています。全社的に、より確かな環境経営を推進するため、「FDKグループ環境憲章」を制定しており、FDKグループのミッションを包含して以下のとおり改定しました。

FDKグループ環境憲章

FDKグループ環境憲章

FDKグループは、以下の環境理念のもと、スローガンを定め、環境経営を推進してまいります。

理念

FDKグループは、「電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献」をグループのミッションとし、Smart Energy Manager (スマートエナジーマネージャー)として、お客様にご満足いただくと共に、環境に貢献する電池、電子製品を中心とした製品を開発、供給し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。また、FDKグループは、豊かな自然・美しい地球環境を次世代に伝えていくため、環境法や環境上の規範を順守した公正な企業活動を通じ、社員一人ひとりとはもとより、「One FDK」として環境への取り組みを推進してまいります。

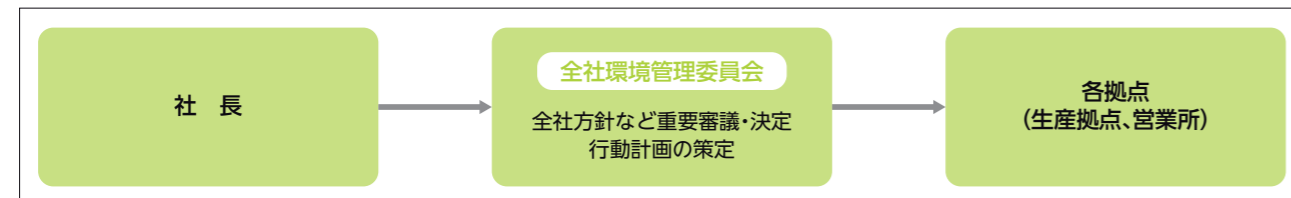
FDKグループ スローガン

FDKグループは地球を愛します かぎりある自然のために

*本憲章は、国際規格ISO14001の適用範囲にかかわらず、国内外の拠点・関係会社に適用する。

FDKグループ環境管理体制

FDKグループ環境管理体制



FDKグループ第8期環境行動計画(2016年度～2018年度)

FDKグループでは、富士通グループ環境行動計画に準拠した3ヶ年計画を策定し、環境への取り組みを推進しています。これらの方針・目標などを通じて、全事業領域にわたり計画的かつ継続的に活動を展開し、自社の環境負荷低減に努めると

もに、お客様・社会の環境負荷低減に貢献しています。2017年度の結果は下表となりました。未達成のテーマについては、原因の分析を行ない、新たな仕組みを構築することにより、対応してまいります。

項目	行動計画 (2016年～2018年)	2017年度	
		目標	実績
環境配慮設計	エネルギー効率改善(省エネルギー)に寄与する電池・電子製品を年1件以上開発する。	電池・電子製品を各拠点で年1件以上開発	湖西 DC-DCモジュール製品、トランス製品の開発 山陽 積層パワーインダクタ製品の開発 高崎 低自己放電モデルのニッケル水素電池の開発 鳥取 筒形リチウム電池の容量向上
	資源効率改善(省資源)に寄与する電池・電子製品を年1件以上開発する。	電池・電子製品を各拠点で年1件以上開発	湖西 蓄電システムの軽量化 山陽 フェライト製品の軽量化 高崎 リサイクル材を利用したニッケル水素電池の開発 鳥取 リチウム電池の材料ロス低減
温室効果ガス削減	2018年度末までにエネルギー消費CO ₂ 排出量を2013年度比14%削減する。(48,181t以下に抑える)	国内FDKグループ全体で排出量を2013年度比15%削減(47,776t以下に抑える)	実績 45,945t 老朽化設備の更新、照明LED化などを実施
エネルギー効率	エネルギー消費原単位を年平均1%改善する。	年平均1%改善	3拠点で目標達成、2拠点で未達成
化学物質削減	2018年度末までにPRTR*対象物質排出原単位を2015年度比3%改善する。	各拠点で2015年度比2%改善	4拠点で目標達成、1拠点で未達成
廃棄物削減	2018年度末までに廃棄物発生量原単位を2015年度比3%改善する。	各拠点で2015年度比2%改善	全拠点で目標達成 分別の徹底、製造工程での廃棄ロス削減推進
地域環境・社会貢献	地域の環境貢献・社会貢献活動の取り組みを年2件以上実施する。	各拠点2件/年以上実施	P21 およびP22をご参照ください。

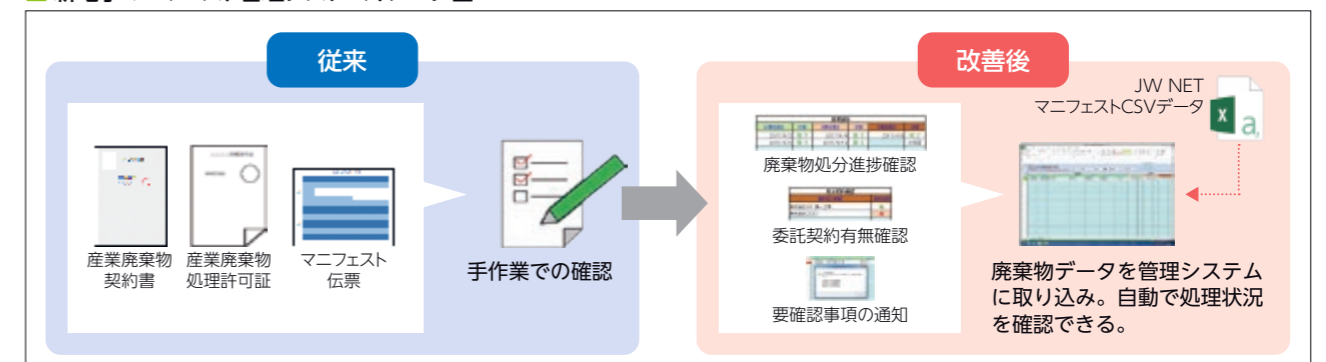
* PRTR(化学物質排出移動量届出制度:Pollutant Release and Transfer Register):人の健康や生態系に有害な恐れのある化学物質について、事業所からの環境(大気、水、土壌)への排出量および廃棄物に含まれての事業所外への移動量を、事業者が自ら把握し国に対して届け出るとともに、国は届出データや推計にもとづき、排出量・移動量を推計し、公表する制度。

産業廃棄物処理に関わる電子マニフェスト管理システムの開発

産業廃棄物の排出事業者には、その産業廃棄物の運搬・処理を委託する際、行き先を管理し不法投棄を未然防止するため、予め委託先と契約を締結すること、またマニフェスト(産業廃棄物管理票)を委託先に交付し、処理後実績が記載されたマニフェストを回収することが法律で義務付けられています。現在環境省が普及拡大を推進している電子マニフェストを導入

することにより情報伝達の迅速化・合理化を図ることができ、記入内容の確認は従来同様一件一件担当者が行なう必要がありました。FDKでは、電子マニフェストのデータを利用して、帳票の確認を自動で行なうシステムを社内開発し、作業の効率化を図りました。

新電子マニフェスト管理システムイメージ図

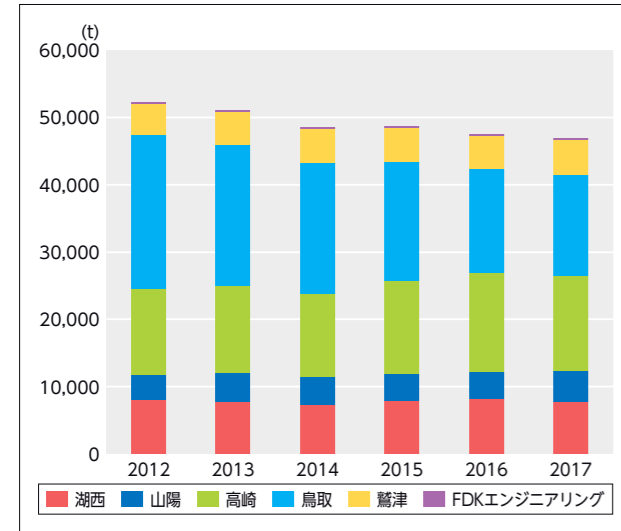




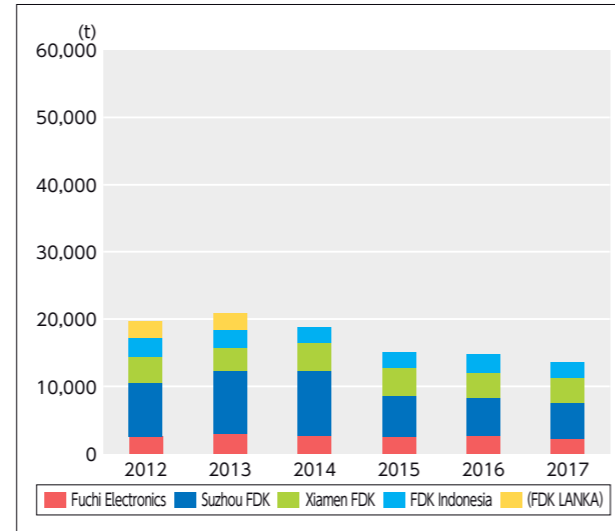
環境パフォーマンス

▶ CO₂排出量の推移(国内・海外) 2012年度～2017年度

■ CO₂排出量の推移(国内)

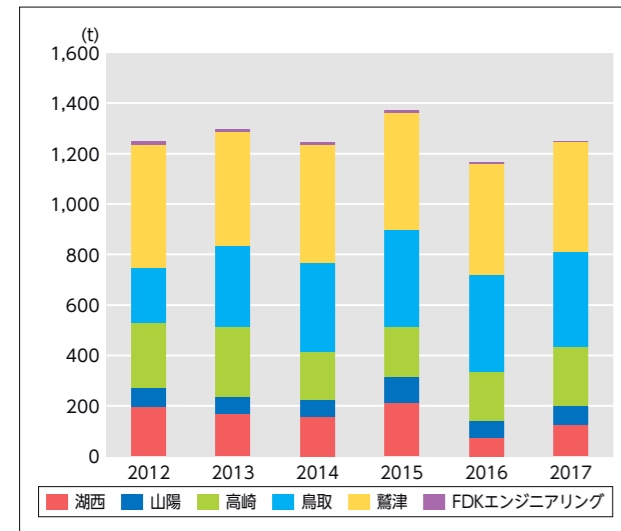


■ CO₂排出量の推移(海外)

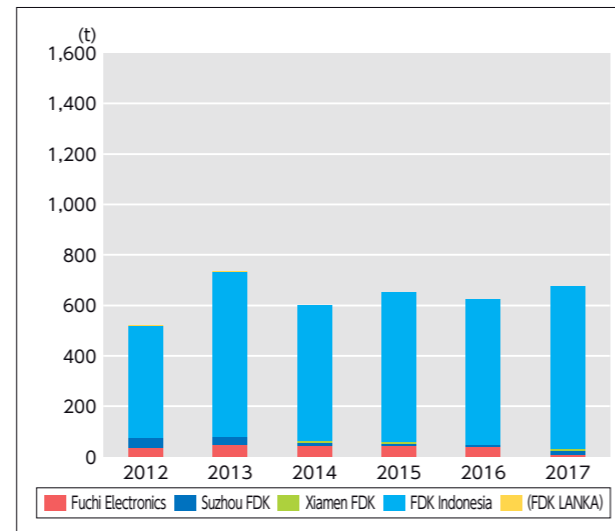


▶ 廃棄物発生量の推移(国内・海外) 2012年度～2017年度

■ 廃棄物発生量の推移(国内)



■ 廃棄物発生量の推移(海外)



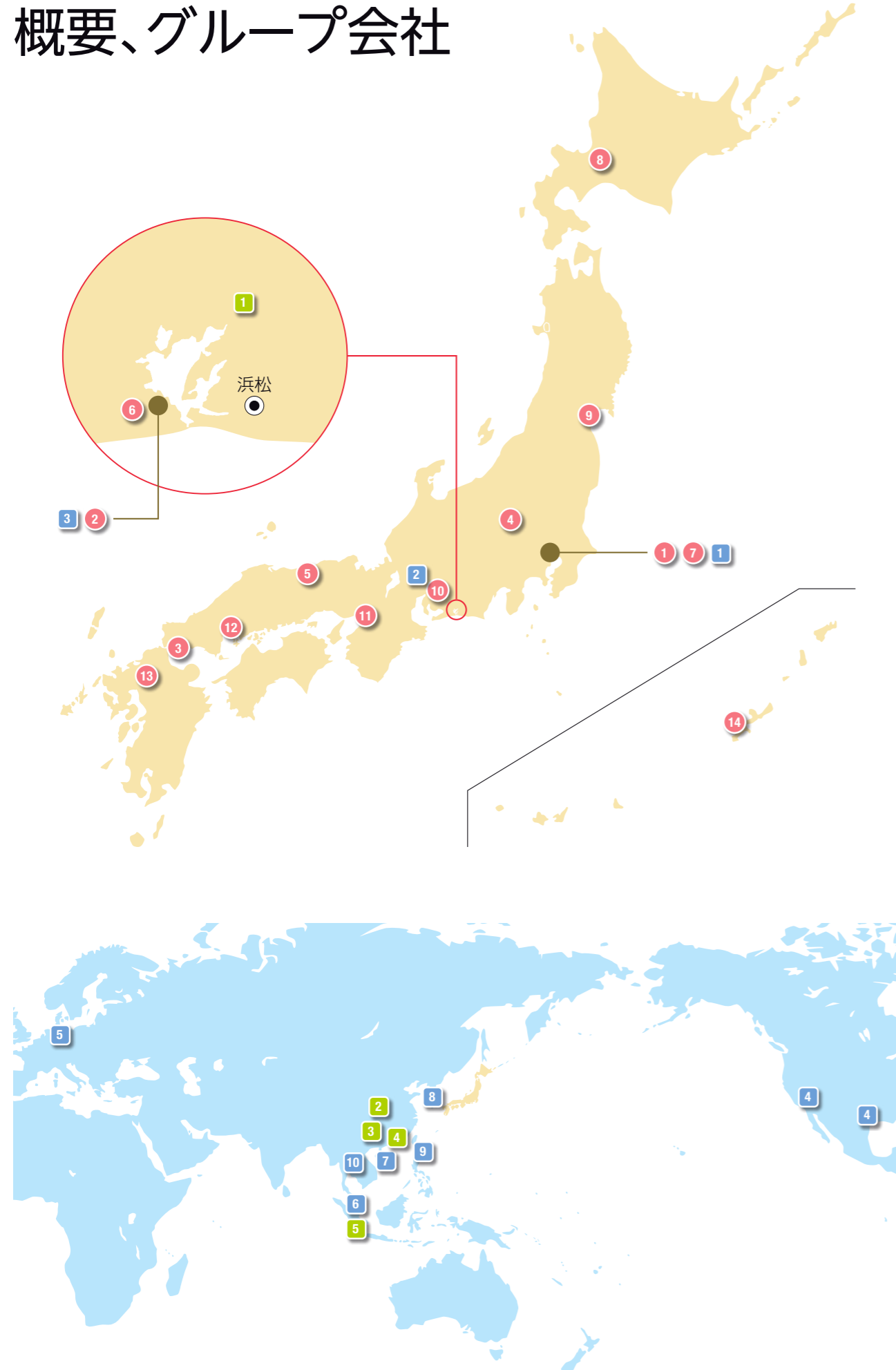
事業所別2017年度パフォーマンスデータ(カッコ内は前年度実績)

項目	(単位)	湖西工場	山陽工場	高崎工場	鳥取工場	鷺津工場	FDKエンジニアリング
CO ₂ 排出量	(t-CO ₂)	7,772 (8,201)	4,619 (4,008)	14,171 (14,671)	15,004 (15,552)	5,105 (4,877)	239 (231)
水使用量	(m)	84,024 (138,845)	29,413 (28,460)	24,179 (24,640)	98,717 (115,395)	46,691 (51,508)	739 (530)
PRTR対象物質排出量	(kg)	3 (8)	0 (2)	182 (92)	178 (189)	- (-)	- (-)
Sox排出量	(kg)	-	- (-)	- (-)	- (0)	- (-)	- (-)
Nox排出量	(kg)	167 (186)	- (-)	- (-)	4,688 (6,093)	- (-)	- (-)
ばいじん	(kg)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
排水量	(m)	84,024 (138,845)	29,685 (28,460)	23,629 (24,167)	51,816 (54,035)	46,691 (51,508)	739 (530)
廃棄物	(トン)	122 (72)	79 (65)	231 (195)	380 (388)	433 (437)	5 (8)
地域・社会貢献	(件)	9 (6)	3 (4)	3 (3)	9 (2)	14 (13)	2 (2)

項目	(単位)	FDK エコテック	Suzhou FDK	Xiamen FDK	Fuchi Electronics	FDK Indonesia
CO ₂ 排出量	(t-CO ₂)	25 (24)	5,297 (5,732)	3,720 (3,560)	2,227 (2,708)	2,412 (2,698)
水使用量	(m)	- (-)	9,590 (9,170)	20,633 (19,554)	7,892 (10,814)	11,366 (27,187)
PRTR対象物質排出量	(kg)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
Sox排出量	(kg)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
Nox排出量	(kg)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
ばいじん	(kg)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
排水量	(m)	- (-)	9,590 (9,170)	20,633 (19,554)	7,892 (10,814)	11,366 (27,187)
廃棄物	(トン)	- (-)	14 (9)	10 (3)	7 (36)	645 (575)
地域・社会貢献	(件)	2 (2)	- (-)	1 (2)	- (2)	- (-)

*「-」は、集計対象外、該当なし、または隔年で測定義務があるもので、当該年度の測定を行っていないものです。
 *購入電力について、CO₂換算係数を0.57t-CO₂/MWhで再計算
 * FDK LANKAは、事業譲渡により2014年度以降の集計対象から除外しています。

概要、グループ会社



■ 本社、事業所、営業所

本社

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 本社	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (品川クリスタルスクエア) TEL:03-5715-7400	EC98J2005	-

事業所

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
2 湖西工場	〒431-0495 静岡県湖西市鷺津2281 TEL:053-576-2151	EC98J2005	4745
3 山陽工場	〒757-8585 山口県山陽小野田市本町5区 TEL:0836-72-1311	EC98J2005	ISO9001:3560381 IATF16949:290535
4 高崎工場	〒370-0071 群馬県高崎市小八木町307-2 TEL:027-361-7575	EC98J2005	4681
5 鳥取工場	〒681-0063 鳥取県岩美郡岩美町太田28 TEL:0857-73-1771	EC98J2005	ISO9001:4193838 IATF16949:281965
6 鷺津工場	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津614 TEL:053-576-2111	EC98J2005	JQA-0459

営業所

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
7 首都圏営業所	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (品川クリスタルスクエア) TEL:03-5715-7436	-	-
8 札幌営業所	〒060-0007 北海道札幌市中央区北7条西13-9-1 (塚本ビル7号館) TEL:011-798-4699	-	-
9 仙台営業所	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-12-1 (シエロ仙台東口ビル) TEL:022-293-5265	-	-
10 名古屋営業所	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-38-2 (オーキッドビル) TEL:052-561-3141	-	-
11 大阪営業所	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-29 (テラサキ第2ビル) (電池営業部門) TEL:06-6350-4883 (電子営業部門) TEL:06-6350-4877	-	-
12 広島営業所	〒732-0052 広島県広島市東区光町2-9-27 (ユーベック光町ビル) TEL:082-535-1450	-	-
13 福岡営業所	〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町1-28 (いちご博多ビル) TEL:092-291-9421	-	-
14 沖縄営業センター	〒901-2128 沖縄県浦添市伊奈武瀬1-9-6 (琉球通運(株)T.C.事業部内) TEL:098-868-8685	-	-

■ グループ会社 (生産関連会社5社)

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 (株)FDK エンジニアリング	〒431-1302 静岡県浜松市北区細江町広岡281 TEL:053-522-5280	EC98J2005	JQA-QMA15241
2 SUZHOU FDK CO., LTD.	43 Building Fengqiao Industrial Park 158-88 Huashan Road, Suzhou New District Jiangsu, China TEL:+86-512-6661-9392	EMS 599587	ISO9001:FM 79598 IATF16949:253888
3 XIAMEN FDK CORPORATION	No. 16, Malong Road, Huoju Garden, Huoju Hi-Tech District, Xiamen, Fujian, China TEL:+86-592-603-0576	00117E20324R3M/3502	ISO9001:00117Q30657R3M/3502 IATF16949:298607
4 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.	No. 355, Section 2, Nankan Road, Rutsu Shan, Tao Yuan, Taiwan TEL:+886-3-322-2124	4E9E001-10	ISO9001:2015/69024.2 TS16949:0223086
5 PT FDK INDONESIA	Kawasan Industri MM2100, Blok MM-1 Jatiwangi Cikarang Barat, Bekasi 17520 Jawa Barat, Indonesia TEL:+62-21-8998-2111	13/02329	13/02328

■ グループ会社 (販売会社など10社)

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 FDK販売(株)	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (品川クリスタルスクエア) TEL:03-5715-7430	EC98J2005	-
2 FDKエコテック(株) (岐阜事業所)	〒503-0322 岐阜県海津市平田町土倉字江東478 TEL:0584-66-4781	EC98J2005	-
3 FDKパートナーズ(株)	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津2281 TEL:053-576-3121	EC98J2005	-
4 FDK AMERICA, INC.	(Head Office) 1280 E. Arques Avenue, MS310, Sunnyvale, CA 94085, U.S.A. TEL:+1-408-746-6815 (Dallas Office) 2801 Telecom Parkway, MS C1R, Richardson, Texas 75082, U.S.A. TEL:+1-972-231-2531	-	-
5 FDK ELECTRONICS GMBH	Einsteinring 24, 85609 Aschheim/Munich, Germany TEL:+49-89-3306680-0	-	91110693/2
6 FDK SINGAPORE PTE. LTD.	4, Leng Kee Road. #04-08 SIS Bldg., Singapore 159088, Singapore TEL:+65-6472-2328	-	-
7 FDK HONG KONG LTD.	Suite 1607-1608A, 16/F., Tower 3, China Hong Kong City, 33 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong TEL:+852-2799-9773	-	-
8 FDK KOREA LTD.	11F, Kyobo Life Insurance Bldg., 1, Jong-ro, Jongno-Gu, Seoul 03154, Republic of Korea TEL:+82-2-582-8452	-	-
9 FDK TAIWAN LTD.	8F-4, No.57, Sec. 1, Chongqing S. Rd., Zhongzheng Dist., Taipei City 100, Taiwan TEL:+886-2-2311-5161	-	-
10 FDK (THAILAND) CO., LTD.	23rd Floor, Exchange Tower, 388 Sukhumvit Road. Kwaeng Klongtoey, Khet Klongtoey, Bangkok 10110 Thailand TEL:+66-2-302-1517	-	-

* ISO14001、ISO9000'sおよびTS/IATF16949など、第三者認証取得状況は、2018年3月31日現在



FDK FDK株式会社

〒108-8212 東京都港区港南一丁目6番41号
品川クリスタルスクエア8階

CSR・コンプライアンス統括部
TEL:03-5715-7402 FAX:03-5715-7401
E-Mail:csr@fdk.co.jp

